始

770
D35

Irving King

370
D25

東京帝國大學圖書館藏

教育と社會

全

大正
5. 5. 15
購求

244—31

序

嘗て學校は社會から隔絶して恰も寺院や教會の如く世俗的又現實的の社會とは違ひ、一種神聖なる又理想的なる場處と考へられ、其社會の弊風に染むべからざるのみならず、其與ふる感化力に依りて學徒をして實際社會に立つの日、一歩社會に超越して之を率ゐ、之に對抗し、之を改善する理想の力を得させんと志した。斯かるは必ずしも社會を學校の敵と考へたのではなく、又社會の世

俗的現實的の弊風から只管に遁がれ去つて、學校といふ一種の理想鄉に楯籠らんとしたものとは見られない。其理想鄉に於ける修養は卽がて巷に出でて叫び、社會を一歩高き狀態に導く用意を爲さしめんとしたものと見ることが出來るが、光明面もあると共に暗黑面もある世の逆卷く浪の中に學徒の身を投ぜしむることは心身の力微弱にして尙發達の途中にあるものにとりては危險千萬と考へたのであつて、これは東西の教育史上に等しく見出さるる事實である。

然るに近世にあつて、一面からは世界を通じ生産交通が發達して、社會的經濟的活動が大に昂まり、他面からは生物學、心理學、社會學、史學の上から個人と社會との有機的關係あること、社會は一の有機體の如く成長し發達するものなることが論證せられてから、教育を施す所の學校と社會とを近づけ、教育は兒童を社會化する事業、兒童に社會的意識を與へ、其社會的活動を催進する事業、而して學校はまさしく其事業を施す場處と見る所謂社會的教育學が起つて來た。而して斯かる傾向

に一致する教育を理論の上からも研究し、實際の上にも行つて居るのは、世界に於て北米合衆國を其第一位に推さねばならぬ。

米國人は固と自由を望んで自由の新天地に國を建て、平和主義に據り實業立國の方針を採つて來たので、一面、個人の自發的活動を重んじ、自由なる發展を爲さしめんとすると共に他面、其發展は門戸開放、機會均等の原則に據り、其力に依つて十分なる社會的活動を爲さしめんことを理想とし、其社會的活動の多方面なる、又其清新なる、尙又其

計畫の遠大なる點に於て歐洲諸國をして後へに瞠若たらしむるものがある。世界に於て米國人ほど社會的、經濟的に活動して居る國民はない。脚一度亞米利加に入れば人をして働らかずには居られないやうな空氣に觸れしむるだけの緊張した生活を試みて居る。

それであるから教育方面に於ても、教育と社會との關係に就いては米國人は最も意を致し、其實際的經營も他の列强に先んじて之を試みて居る。米國人の考からすれば、教育の目的は體力を發達

せしめ、經濟上の能率を昂むるが如き人を造ることに其主力を置くべきものであつて、此力が缺けて居るものは結局は其人格の練られたものでないと看做して經濟的の訓練と道德的の訓練とは離れて施さるべきでない、此兩者は互に關聯して居つて、兩者相竢つことに依つて始めて勤勞を愛し、生產の力を有し、社會的奉仕の任務を果たさしむることが出來ると考へて居る。從つて學校を社會に出る準備を爲さしむる處と見ず、之を一の社會其ものと見て經營して行かねばならぬばかりでなく、進んでは學校を社會敎化の中心とせねばならぬといふやうに考へても居り、又行つても來るやうになつた。學校は單に兒童を敎育する場處であるばかりではなく、又學校を出でたる大人をも敎育する場處となつて、學校敎育の效力を出來るだけ昂むるやうにしなければならぬ。其爲めに學校を兒童に開放するのみならず、同時に大人にも開放し、其敎場、其運動場、其實驗室、其圖書館をも開放し、あらゆる自治體に關する問題の協議も此處で開くやうにし、市民の娛樂も此處で求

むるやうにしなければならぬとするに至つた。所謂學校中心の運動は斯くの如くして起り、就中米國の農業專門學校の中には其教授を農業地方に派遣し、汽車を利用して其汽車内に講演の材料を積み込ましめ、其汽車の停車する所に豫じめ農民を集め置いて農業の實際を改善し得る如き講演を試み、順次停車場より停車場へと及ぼすといふやうなことをさへ始めて居るものがある。此點に於ては米國の教育は確に一の特色を有し、世界教育の上に新なる貢獻を爲しつつあるものと

認むることが出來る。

アイオウァ州立大學の教育學助教授キング氏が著はした『教育と社會』は、右述べた如き米國教育の特色を理論の上から精確に研究したもので、又其實際的經營の方案も示してある。啻に學校と社會との關係を十分明瞭に說けるに止まらず、學校其ものを一の社會と見て、其社會生活を如何に指導し行くべきかを明かにし、尙教授訓練の方面に於て其社會的に陶冶すべき委細の方法をも示してある。我國に於ても學校を社會教化の中心と

せんとする思想が段々昂まり、其方案も追々立てられ來たつた今日、殊に參考に資すべき所が尠からぬことを認められる。而して又、今回世界大戰亂の結果が教育の革新を更に促がし來たる場合に、其眼を着けらるべき第一のものは必ず此學校と社會との關係を如何に密接に附けて行くべきかといふ點にあることは疑はれぬ。

斯かる考へ方と其實施方針とに對して不滿足な點を擧ぐれば、教育を社會の方面から觀ることに傾き過ぎる結果、兒童の人格其ものの内部に立

入り、其處に教育の原理を見出し來たつて確固たる教育の基礎を築き上ぐる點に不十分な所があることである。これはデゥイ氏の『學校と社會』にも說ける如く兒童を社會化すると言つても、それは兒童本來の自發的活動を本としなければならぬこととして居り、又キング氏も兒童の人格の社會的基礎、兒童の心意活動と團體の影響といふが如き方面にも論究はしてあるが、其人格の内部に潛める直覺の力、反省の力、獨創の力を重く見、此處に教育の新境地を拓くべき點に於て尙吾人をして

不十分と思はしむる所がある。而して此點が動もすれば他國人から觀て、米國民は實際界に於ける成功を狙ひ、深き精神的の自立と反省とを缺き、所謂成り上がりものと評せらるる本であると思はるる。此點を注意してさへ行けば本書は我等に大に教へる所がある。

本書の譯者田制佐重君は平生哲學と教育との研究に專心し、先には英のシラーの『プラグマティズム』を譯して、其力を世に示されたが、本書に於ても原著者の意が十分能く寫し取られて、而も其叙述

極めて平明、殆ど所謂飜譯臭き點がなく、キング氏の精神が生々と譯出せられて居る。余は敢て我教育社會に對し先達者顔して言ふのでなく、原著竝に田制君の此譯書に依りて自から益を得た學徒の一人として之を世に推奬する。

中嶋半次郎

例言

本書は米國アイオウァ州立大學アーヴィング・キング教授の著『社會的教育觀』'Social Aspects of Education." 1912.)を纂譯したものである。元來原著は一種の『資料本』で、同教授は幾多學者の著述中より夥しき資料を抄錄し、一々之に補註を施して、首尾一貫せる教育の社會的解釋を確立せられたのであるが、理論精到、叙述明快、加之全篇を通じて教授の經世家的氣魄と實際教育家的精神とが活躍してゐる。唯本書に於ては紙數の制限上之が全文を譯出することを能はず、爲めに我邦現時の教育眼より觀て必要の程度如何を斟酌し、原著の分量に取捨を加へた。其結果篇章節等の名稱分類等も亦必ずしも原著に據つてゐぬが、全體の意義又は實質を紹介せる點に於ては確に原著の要領を得たものと信ずる。

原著者キング氏は一八七四年七月米國インディアナ州に生れ、夙に小學教師及び中學校長の職を奉じ、實際教育上の經驗を積める後、市俄古大學に於

て更に哲學、心理學、教育學等を學び、一九〇四年同大學より哲學博士の學位を受けた。而して一九〇九年現地位に就きてよりは益〻孜々として教育學の研究に從事し、今日に至るまで幾多の著述がある。今本書の原著以外其主なるものを擧ぐれば左の通りである。

『兒童發達の心理』("The Psychology of Child Development," 1903.)

『宗教の進化』("The Development of Religion," 1910.)

『社會有爲の教育』("Education for Social Efficiency," 1913.)

『中學時代』("The High School Age," 1914.)

右の中『社會有爲の教育』は實に資料本たる本書の原著を大成し、全篇著者自身の筆に成つたものであるから、本書と併せ讀まば原著者の社會的教育說を一層明瞭にすることを得るであらう。

原著者自身の語る所に據れば、嘗て氏が市俄古大學在學當時、同大學教授たりし(現コロンビア大學教授)かの有名なるジョン・デゥイ博士に親炙し、同博士の社會的教育說、卽ち其名著『學校と社會』("The School and Society,")に現はれ

たる教育思想に依つて著しく感化されたとのことである。而してデゥイ教授の教育說は實に現代米國教育の學理及び實際を支配するものと認められてゐるから、其思想的感化を受けたるキング教授の本書が教育學上如何なる地位を占むるかも亦蓋し推察するに難からぬであらう。キング教授は本書到る處に於てデゥイ教授の言說を摘記して自說を裏書することに努めて居られる。

本書上篇は學校と社會との關係を論述し、主として現代米國の教育狀態と教育的活動とに就いて立論したものである。吾人は之に依つて啻に米國現時の教育事情を知るを得るのみならず、必ずや我邦教育に對する深刻なる暗示と感激とを受けるであらう。而して中篇に於ける學校內部の社會生活と、下篇に於ける學習作用の社會心理學的研究とは、尠くとも我學界に取つて一種斬新なる研究たることを疑はぬ。素より本書の採れる社會的見解は教育解釋の全豹を盡したものと謂はれないかも知れぬが、無論有力なる一面たるに相違なく、而も今後此方面の新研究が一層緊急の度を增

し來たるべきことは極めて明白の事實である。

早稲田大學教授中嶋半次郎氏は特に本書の爲めに長文の序を寄せられ、教育界に於ける米國教育乃至本書の地位に對して批評的紹介の勞を取られた。我邦現代教育學者として錚々の名ある中嶋教授の批判は、確に讀者に多大の用意と教訓とを與ふべきを信じ、本會は玆に氏に對して深く感謝の意を表する。獨り米國に限らず、全世界を通じて所謂「教育的動搖（エデュケーショナル・ファーメント）」の時代たる今日、本書が我教育界を初め一般社會に對して貢獻する所尠からざるべきは吾人の窃に期待して已まぬ所である。

大正五年四月

大日本文明協會識

目次

上篇　學校と社會との關係

第一章　教育の社會的解釋……一
第二章　學校の社會的起原……三
第三章　學校の社會的任務……三
總　說……三
地方學校と地方社會……元
ヘスピーリア運動……三七
第四章　家庭と學校との關係……四五
第五章　社會中心としての學校……五五

學校任務の擴張……五五
ロチェスター社會中心所……七五
第六章　成年者の補習教育……八
第七章　運動場及學校園……一〇
運動場の社會的意義……一〇
學校園の社會的意義……一八
第八章　職業教育の社會的意義……二六
第九章　教育と社會發達……二四
第十章　教育と社會改良……二五

中篇　學校內部の社會生活

第十一章　社會生活……一八七
社會生活の本質……一八七
基本社會と基本理想……一九三
第十二章　兒童の自發的社會生活……二〇八
第十三章　學校の社會生活……二二
社會教育……二二
中學校の社會組織……二四六
第十四章　學校の管理……二六四
生徒の自治……二六四
學校の民主制……二七五
第十五章　學校生活と人格的影響……二九二

下篇　教授訓練の社會的側面

第十六章　心意發達の社會的側面……三三五
兒童陶冶の社會的側面……三三八
人格の社會的基礎……三四六
心意發達と教育……三五七
第十七章　學習の社會的側面……三六一
心意活動と團體の影響……三六一
教授と社會意識……三九六
學課の社會的價値……四一一
學級教授の社會的側面……四二五
第十八章　訓育の社會的側面……四三五

索引……四六三

目次終

教育と社會

上篇　學校と社會との關係

第一章　教育の社會的解釋

從來教育の理論や實際の根據をなしてゐる科學は單に心理學のみであつたが、今日社會學及び社會心理學が發達した結果、教育學上の原理原則は著しく豊潤なる基礎の上に据ゑられることとなつた。勿論今日と雖、心理學が教育上に占める重大なる地位は決して動搖しない、心理學の地位は今や全く確立不動のものとなつたのである。唯、吾人の注意すべきは心理學は教育作用の一面の解釋を與へ、又教育作用を支配する幾多の原理中の一部を供するに過ぎぬといふ事實である。教育が被教育者の心意活動と心

意發達とを豫想するものなることは言ふまでもない。苟も熟練せる教師は此心意活動乃至心意發達が如何なる生物學上及び心理學上の原理に支配されるものなるかを知つてゐるに相違ない。然し教師は單に個々の生徒や又は個々的に見られた一團の生徒にのみ觀察の範圍を限つて、此等生徒が社會生活上から受ける種々なる心意的影響を不問に附するやうなことがあつてはならぬ。如何なる人も決して自己一人のみで生活を營むことはなく、各人の思想や行爲は複雜微妙な方法に依つて他の人々の影響を蒙つて居るといふことは明白であるが、此事實は啻に成人社會に行はれてゐるのみでなく、兒童の學校生活に於ても亦同樣に行はれるのである。故に個人の心意研究を主とする心理學のみでは到底今日の教育作用を律することが出來ない。卽ち更に廣汎な社會學又は社會心理學から其原理を得て來なければならぬ。加之、總ての教育的活動は社會的大事業である。而して此點に教育の重大な社會的諸關係が存するのであるから、苟も教育を廣く解釋せんとするには眼を須らく此處に注がねばならぬ。

斯樣に教育の社會的研究が必要視されるに至つたのは單に教育の原理の方面からのみではなく、寧ろ輓近教育的活動の範圍が著しく擴張した實際的方面からである。換言すれば、教育の意義が從來考へられたよりも一層廣いことを學理的に認識した結果ではなくして、寧ろ教育界の指導者等が漸次複雜に赴く近代生活に促された實際的必要に基くものと看做すのが至當であらう。

「教育が一種の社會作用であるといふには三箇の意味がある。卽ち第一に、教育は社會の教化を保存する具たると同時に、兒童をして他日有爲の成人となつて各自の業務を完全に遂行せしめ得る準備として社會が使用する機關である。第二に、學校其ものは既に一箇の小社會である、而して此學校内の種々なる社會的關係を裏心理解する教師は最も有效な教授を施すことが出來る。第三に、學習作用は一箇の社會作用である、而して之を解釋するには心意と心意との相互作用に關する確實な事實に俟たねばならぬ。」苟も現今教育の本性及び可能性を完全に理解するには、少くとも此等三方

面に亙つて其社會的觀察を遂ける必要がある。」

勿論、此等教育の社會的三方面は特に近代に至つて始めて現はれたものではなく唯、今日之を明かに認識するに至つたに過ぎぬ。原始時代から現時に至るまで、社會が其兒童教育の、事業を營むに當つて以上の如き社會的諸關係が該事業の特色とならなかつた時代はない。然るに此等の社會的諸關係は今日に至つて殊に顯著となり、且つ一方に於て近代生活の各方面に普及して來た高度の分化が教育にも浸潤し、其結果吾人をして事實の上から之を明白に認識せしめるに至つたのである。嘗ては無雜作に教育を定義しようとした時代があつた、然し今日斯かることを敢てせば恐らく輕卒の譏を免れぬであらう。教育といふ語の含蓄する意味が今日ほど豐富な時代はあるまい。プラトーンやクウィンティリアヌスは素よりロック、スペンサー否、ルッソーと雖、現今の如き諸種の問題に接觸したことはない、況や其解決を下すが如きことは猶更である。彼等が立てた簡單幼稚なる教育の原理乃至方案は文化の初期又は未だ複雜なる發達を遂げざる時代の爲めに

案出されたものに外ならぬ。

「加之、近代の諸社會には種々なる方面に根本的變化が行はれてゐる。而もそは個人として吾人が欲するとに拘はらず、現に行はれつゝあるのみならず、將來も永續して行はれるに相違ない。」社會が如何なる個人よりも大なることは吶々するまでもないが、假令各個人が社會の發達進歩に對して夫々應分の貢獻を爲すにもせよ、實際生活の必要上、各個人は滔々たる社會的大活動の渦中に投ぜられて殆ど其歸趨を豫測し得ざるの觀がある。勿論、近代社會に出現した人間の生活境遇上に於ける種々なる變化の中には寧ろ有害視せざるを得ないものもある。是れが爲め各個人は從來身體的、知識的及び道德的本性の諸方面に於て大に苦しみ來たり又現に苦しみつゝある。然し吾人は此艱苦に對して何等か相當の報償の得らるべきことを信じても敢て不當ではなからう。吾人は其細目の研究に至つては甚だしく不完全ではあるが、漠然ながらも此報償の或ものを窺知し得たと思うてゐる。兎に角斯かる急激な境遇の發達及び變化に促された

結果、吾人は漸次教育の社會的關係を考察する必要に迫られたのである。而して教育家乃至學校が益〻重大な任務を帶びてゐることは明白なる一大事實となつた。

教育が斯かる新任務を帶びてゐることを認める論者は、學校を以て社會進歩の原動力であると看做してゐる。例へばデゥイ教授が『學校は社會の進歩改良の根本的方法である』と言ひ、ロッス教授が『今日に於ける學校教育は社會進歩の一大機關で、教師は普通の父母に比し遙かに廣き見識と自由の精神とを有つてゐる』と言ひ、又スコット教授が『學校の本領は、例へばかの胎芽が、總て一種の豫言である如く、より善く、より高き生活の豫言たるに存する』と言へる如き皆それである。今以上三氏の言を綜合すれば、茲に教育の社會的關係に關する一箇の根本問題を捕捉することが出來る。而してそれは左記の二重の問題として表はされる。

第一　教育作用は如何なる程度まで社會進歩の通路と看做され得るか。

第二　諸種の教育作用、特に學校は

（イ）其一層廣き社會的關係と

（ロ）內部の社會的本性と

を認めらるゝことに依つて益〻有效なる教授の箇處たると同時に、如何なる程度まで社會進歩の有力なる助長者たり得べきか。

此等の問題に答へるには頗る眞面目な省察を要する。蓋し學校が眞に社會進歩の原動力なりといふ斷案は決して既定的のものと言ひ得ないからである。學校を以て積極的社會改良の原動力と看做す論者は教育作用中にも幾多著しき病弊の存することを看過してはならぬ。故ウィリアム・ジェームズ教授は或公開講演に於て次の如く述べたことがある。

『東海岸地一帶に行はれる敗德行爲にして或ハーヴァード學士の熱狂的の贊成を受けぬものはない。五十年前までは學校は犯罪、不祥事等を防遏するものであると思惟されたが、今日では最早斯かる樂天的な期待を學校に寄せることは出來ない。假令教育は殘忍なる犯罪を防遏するものであつても、往〻劣惡なる犯罪を教唆することがあるのは事實である。知力が情慾の

奴隷となれば、教育は特に吾人をして其情慾を遂ぐるに巧妙ならしめるやうな場合がある。』

又有名な某倫理學教授に就いて研究してゐた一優等生は卒業後州會議員に選擧され、遂に『公盜』となつたといふ例もある。以上の二實例の如きは現今教育が常に蒙る幾多非難中の標本に過ぎぬ。最早學校は其增加した る諸般の任務に應ずるの力なしとの感を懷くもの今日決して尠しとしない。エリオット總長は今日の學校が授ける知識は無效なもので到底學費を償ふに足らぬと極言した。尙他に識見ある學者で現今の教育に對して一層嚴しき非難を加へた人は決して尠くない。

然し、是れが爲めに今日の學校は過去數代の學校に比して著しく其效力を減じたと考へてはならぬ、寧ろ今日の需要に多少適應し得ざるに至つたと言ふが事實であらう。假りに今日の學校が一代前の社會狀態に存してゐたとすれば、そは正しく當時の學校に優つて當時の需要を滿足せしめ得たと看做されるであらう。今日學校が負擔しつゝある任務は其當時にあ

つては概ね他の機關の掌る所であつた。加之其當時は未だ人口が稠密でなく又生活程度も低かつたから、學校が實業教育乃至職業教育の如き各種の專門教育を施すべきや否やの問題も起らず、又其必要も感ぜられなかつた。身體檢査や其他生徒の健康保持の方法は、未だ其必要を十分に認められてゐなかつたのみならず、概して言へば斯やうなものは存してゐなかつた。運動場學校園、職業上の指導、其他現行教育各般の設備は未だ其要求を感ぜられなかつた。少くとも此等の需要は他の方法を以て充されて居たのである。

斯樣に根本的に異なつた社會狀態に生活して居るにも拘はらず、尙且今日學校の因襲的諸活動が其社會狀態から必然大影響を蒙らねばならぬといふ著明の事實を認め得ない人が決して尠くない。然し社會的諸機關が負ふ所の教育力の分擔は、決して因襲又は理性に依つて絕對的のものと定められた一定不變のものではない。卽ち、社會の必要上、或時代は甲の機關に、或時代は乙の機關に比較的大なる需要を感ずるものであるから、社會進

歩の潮流變轉するにつれて、嘗て有力であつた或機關が假令全然無效に歸することはなくとも其教育力の薄弱となるを免れない。之に反して或他の機關が效力强大のものとなり、十分現代の要求に適應するに至るかも知れぬ。都會の產業社會の家庭には、農村の家庭生活中に見るやうな兒童に對する道德的感化の事實は存してゐない、說教を聽かうとて教會を訪ふものは一世紀前に比して遙かに少數となつた、嘗て家庭に止まつて職業を營んでゐた時代は、各人の生計に敢て不足がなかつたが、今日諸種の工場に雇はれる年期徒弟は其職業だけで生計を營むこと益困難となつた。新聞紙の勢力は日に月に加はり、圖書の出版愈繁多に赴いてゐる。而して之と同時に往時僅に弱小なる嬰兒に過ぎなかつた學校は今や成長して近代の巨人となるに至つた。舊き機關の力は今日尙依然として吾人の神經系統を衝擊して居るが、其作用の分布工合は既に變動し、又現に變動しつゝある有樣ではないか。

斯く教育作用の種々に變轉して息まざる中にも、尙顯著なる一傾向は明

かに觀取される、卽ち當座間に合はせの無系統的教育機關は最早吾人をして復雜なる環境に處せしめ得る能力を缺いてゐるから、益自覺して來た社會は是れまで閑却されて來た諸種の教育的任務を一切學校に委托するやうになつたことである。教會乃至家庭は既に吾人今日の複雜なる社會生活の道德的要求に應ずるの力を失つたから、道德教育の事柄は學校が當に解決すべき緊急問題となつて仕舞つた。都市にあつては兒童の作業及び遊戲は甚だしく制限され、野外に出でて新鮮の空氣を呼吸し、凜々たる日光に浴し、强壯なる身體の活動を營むことの不可能となつた結果、學校は身體の組織的訓練を施し以て此缺陷を充たすべき新任務を帶びるに至つた。工場商店等の業務が益專門的、科學的となるにも拘はらず、舊來の年期徒弟制度は到底此趨勢に應ずべき善良の職工を養成する力を失つた結果、有爲有能の雇人を養成する責務は一に學校の負ふ所となるに至つた。

第二章　學校の社會的起原

今、學校の起原を考究する一方法として吾人は原始民族の間に行はれた
る教育の社會的性質を論述して見よう。

原始社會又は文化の複雜ならぬ時代には、未だ學校は獨立の設備として
存在しない、全社會は擧つて多少能働的に兒童教育に從事するのである。
然し一旦學校が特設された後は、此社會的關係は必ずしも斯く明瞭ではな
い。それは兎に角、原始社會でも文明社會でも一切の教育的活動は多少純
然たる社會の要求に應ずるものなることは疑ひなき事實である。特に原
始社會に於ては、若し其兒童教育が實際生活の要求と甚だしく背馳するな
らば、其種族は到底永續することは出來まい。故に、原始民族は如何にかし
て狩獵戰鬪用具の使用法や、社會の安寧鞏固を保持すべき種族の風習や宗
教上の教訓を學ばねばならぬ。若し半開社會の幼稚な技藝が何等かの方
法で歴代保存されることなくんば、該社會は忽ち野蠻社會の生活狀態に逆

轉するであらう。故に未開人に取つては如何に生硬粗雜でも、又意識的た
ると無意識的たるとを問はず兎に角、少くとも文化の現狀を維持する爲め
に何等かの教育が必要である。

人間教育の起原は恐らく全然無意識的のものであらう。激烈なる生存
競爭に打勝つて存續した社會乃至民族は徐々に其諸經驗の結果を保存し、
之を後代に遺傳するの能力を獲得したる社會乃至民族であつた、而して此
能力は恐らく自然淘汰に依つて培養助長されたものであらう。それは兎
に角、何等かの方法で其文化を後代に遺傳することなき社會は一として永
續した例はない。

原始民族の教育は恐らく下等動物の社會にも多少行はれる模倣の稍發
達した形式に過ぎぬものであらう。動物が果して模倣を行ふや否やは疑
問であるが、動物が其兒に本能を遺傳するには往、或程度まで其兒の營む多
少の模倣を仲介とすることは恐らく事實であらう。人類とても最初は動
物と比較して、さまで大なる模倣性を有つてゐないから、兒童も特に社會の

人々と漫然模倣的接觸を行つて行く間に年長者の技能に習熟するに至るものと認められる。

家庭及び隣保に行はれる日常の社交は啻に原始時代に於ける教育の起原なるのみならず、如何なる時代、如何なる文化の程度に於ても最も重要な教育の一手段である。種々の系統的教育手段は畢竟此廣き社交を胚芽として、それから發生したものに外ならない。而して此廣き社交は系統的教育の基礎乃至背景となり且つ其社會的關係を決定すると同時に其缺陷を補足するの效がある。

文化の單純な時代、換言すれば社會の日常生活及び日常の業務が其まゝ此文化の全體である時代は、模倣や日常の社交に依る教育だけで十分であらう、卽ち當時の社會の文化は殆ど全く日常生活に依つて學び得られる種類のものである。然し殆ど如何なる時代にも多少熟練を要する仕事あるを免れないから、幾分か意識的に修業者を指導しなければ其仕事に熟達せしめることは出來まい。例へば弓矢其他幼稚な武器の使用法とか、簡單な

陶器製作法とか、又は機織法とかゞそれである。更に種々の風習及び宗教的信仰中にも全然之を無系統的な社交の力にのみ委すべからざるものがある。系統的、卽ち正式の教育活動は、偶然的機會に委すべからざるほど重要なる此等特殊の技術、風習、信仰等に關聯して始めて發生するものである。故にそは其初期と否とを問はず、常に總ての社會的文化を悉く傳達することを期するものではなく、意識的に選擇された文化の或斷片を傳達するを目的としてゐる。而して此系統的教育の缺陷を補足し、又其作業を有意味のものとするには、必ず上述の如く無系統的教育の力に俟たねばならぬ。

系統的教育の起原を明かにするには、今日の野蠻乃至半開社會の成年者對兒童の關係を叙述するに如くはない。濠洲東南部の或土人にあつては、老人が夜籌火の邊に青年を集め、其種族の傳說風習等を教授するといふことである。斯やうな方法は正しく純然たる無系統的社交以上に一歩を進めたものと謂はねばならぬ。教授の時間は此部落の人々が夜籌火を圍んで互に談話に耽る時である。

學校發生の第二階段は加盟式であつて、是れが爲め或一定の時日―長きは往々數箇月に亙る―を費すのである。此儀式は恐らく系統的學校教育の最も原始的な型と認められるであらう。此際種々な方法で青年の體力及び克己力を試驗するのである。老人は青年に向つて種族の神話、宗教上の風習儀式等を一々教授すると同時に、種々峻嚴な方法で青年の忍耐力を試驗し、青年が成人社會に加入して種族生活の諸任務を果たし得べき强健な身體と堅忍不拔の克己心とを有するや否やを判斷する。極めて原始的な社會には未だ特別に教師なる階級が現はれない、全社會、否恐らく老人團が擧つて教授に從事するのである。從つて老人に對する一般の尊敬は實に著しい。

抑、野蠻人の教育制度は其社會の團結を保たんが爲めに案出されたものであつて、素より知識の開發、技能の傳授を目的としたものではない。故に系統的に教授するものは主として道德上の事柄であつて、職業實習の如きは隨時任意に教授されるのである。濠洲土人の食事規定を觀れば、如何に

欠

あり、或程度までは、明かに意識された目的の表現である、故に其機能を成就するには須らく其社會的關係を十分に會得し、內部からそれを指導管理する必要がある。

斯く學校は最初動物社會と大差なき程度の人類社會の要求に對して殆ど無意識的に順應したに過ぎなかつたものが、漸次社會の發達するにつれて今や有力なる社會的設營たるに至つた。故に教育的活動は最早社會の要求を反映しないやうなことがあつてはならぬ、須らく一時の出來心や思附などを離れ、深く實際社會の要求を考察して是れを指導しなければならぬ。教育者は社會を構成する一分子であるから、他の總ての分子と同等に、社會の潮流乃至傾向を研究し、適當の標準に從つて之を評價するの責任がある。否、學校を管理し、又實際に運用する教師乃至教育當事者は、或點に於て多少社會の他の人々の水準以上に出なければならぬ。卽ち彼等は努め て社會的運動乃至社會的要求を理解し且つ自己の事業を整齊して社會最善の要求を充たすことを心掛けねばならぬ。勿論、學校はそれを維持經營

欠

する社會の要求に適應しなければならぬが、更に一歩を進めて理想の意識的代表者となり、社會をして其最善至美の抱負を自覺し、且つ實現せしめるやうに努力せねばならぬ。

第三章　學校の社會的任務

總說

社會の進歩につれて學校の任務が擴張するに至つた次第は以上に明かであるが、此點に於て北米合衆國の地方狀況と地方學校とを詳說するは、教育の社會的關係乃至社會的任務を理解する上に頗る便利であると思ふ。

北米合衆國では今日地方學校は不思議にも該地方の社會的要求に應じなくなつた。そこで各州の先覺や教育當事者の間には、此悲しむべき狀態を救濟せんが爲め競つて種々の教育的施設を實行してゐる。素より建國時代の學校は完全に其社會的要求に合致したものであつたが、社會組織の急激に發達するに及んで學校は到底是れが進運に伴ふ能はず、遂に地方學校と地方社會との關係は漸く斷絕せざるを得なくなつた。

抑、地方學校は地方生活に對して眞の同情ある解釋者たらねばならぬ。即ち其目的は地方の兒女をして地方生活を樂しましめ、地方生活が兒女の

諸能力を運用し、最高知識を活用するの機會を供することを眞に會得せしめることに在る。換言すれば地方生活、卽ち聰明な兒女にとつて他の如何なる生活、例へば都會生活に比して毫も遜色なき地方生活は、之を個々人の發展、享樂、健康乃至社會的奉公を全うする上から觀ても、實に興味あり價値あるものなることを兒女に會得せしめなければならぬ。然るに從來地方學校は甚だしく其當然の任務を怠つてゐたかの觀がある。卽ち地方學校の教育は兒女をして田園生活を樂しましめず、却つて之を嫌惡せしめるやうな傾向があつた、地方學校は聰明な地方兒女をして其當然の活動天地たる田園を脫離せしめるやうに教育したと言つても決して過言ではない。地方兒女は宛ら都會に追放されんが爲めに教育されてゐるといふ惡評を蒙るのも强ち無理ではあるまい。

今、學校側から觀れば是れが原因は多種多樣である、就中教師の無經驗、が其最大主要の原因である。教師は都會に於て教育されたものであるから田園生活に慣れず、從つて其生活の樂みを知らない、唯地方に於ける教師の

經驗をば一層望ましき社會的地位若しくは俸給多き都會に於ける地位を得るまでの見習に過ぎぬと考へてゐる。斯やうな教師に教育される兒女が都會を以て一生を送るに最も望ましい場處であるとの考を起すは無理ならぬことである。地方學校で教へる形式的な知識一偏の學問が、兒童をして田園生活の興味を會得せしめる上に殆ど寸效なきことは言ふまでもない。地方學校は概して因襲に囚はれ、專ら形式的な知識一偏の學問を教授するに止まつて、敢て田園生活の妙味を鼓吹しようともしない、從つて優秀の少年子女が地方學校に於ける教授の劣惡に堪へ切れず、遂に進歩した都會の學校に轉ずるの傾向あるは是れ又止むを得ぬ所であらう。

地方人口の增殖が都會のそれと同一歩調に進むことが出來ないといふ事實は、偶々地方に於て運用される諸般の力が田園生活の正當な發展に不利なることを最も能く證據立てゝ居る。蓋し兒女が地方を去つて都會に赴くに至つた原因は、唯上述した不當誤謬の教育にのみ歸することは出來ない、他に種々なる誘因がある。數年前、農作物の價格暴落し、農夫が如何に

精勵しても纔に其賣上高を以て生計を立て子女を教育し得るに過きず、殆ど何等の餘力すらもなき窮境に陷つたことがある。縱し優に生計が立つても、農民一般の生活は艱難辛苦に滿ち永久に人生一般の悅樂を享受し得ざるかの觀があつた。其後農作物の價格漸次に騰貴し、又從來都會の專有であつた人生の悅樂も多少地方に入り來たるに從つて、作業の方法は改善され、爲めに家族の全員は從來農夫生活に伴つた艱難辛苦の少くとも一部分を輕減されることになつた。此等の現象は現に田園生活をして益興趣多きものたらしめる上に與つて大に力あるものとなつてゐる。

地方人を驅つて都會に赴かしめる他の一大原因は、田園生活の孤立的であつて而も健全な社交的悅樂の機會に乏しい點に存する。然し地方人として決して天性社交を好まぬものではなく、唯其機會を缺いてゐるに外ならない。此點から觀れば米國初代の田園生活は毫も間然する所がなかつた、而して地方生活の根柢を崩壞せしめたものは主として第二代乃至第三代に於ける地方人口の變動と都會生活の魔力とである。

抑、地方生活を以て住み心地よきものたらしめ、農民をして安んじて地方農村の安寧幸福を維持せしめることは社會全體の鞏固を保つ上に絕對に必要である。從來米國の都會に於ける人口の激增は遙かに地方のそれを凌駕し、都鄙發達の均衡は頗る不釣合の狀態に陷つてゐる。而して此急激の發展を遂げつゝある都會を維持するに足る食料を生產して行く農民の數は現に不足を告げてゐる有樣である。之を見ても趣味と實益とを兼備した田園生活の開發乃至改良が、今日痛切なる社會的要求たるに至つたのは自然の勢と謂はねばならぬ。此間に處して地方學校の盡すべき任務の如何に重大なるかは今更事々しく論ずるまでもない、勿論、地方學校は全能者ではない、故に吾人は之に對して總てを望むことは出來ないが、少くとも地方學校は此緊急問題に對する第一の解決者を以て任じなければならぬ。吾人は切に地方農村の經濟的事情が益順調に赴き、强健にして教養ある青年男女をして益田園生活の興味を會得せしめるやうな種々なる改良事業の勃興せんことを希望する。若し斯やうな改良運動にして開始されんか、

それは必ず學校に何等かの反動を起さしめるであらう、卽ち學校は種々なる方法を講じて田園生活の興味を地方人に鼓吹するに至るであらう、否、現に然か爲しつゝある地方學校も決して尠くない。

今其努力しつゝある主なる事業を列擧すれば、

一　地方學校に於て、田園生活と諸般の耕作及び家畜飼養に對して從來よりも一層正確な準備となるべき學科を發達せしめること

二　田園生活及び地方問題に對して從來よりも一層同情あり理解ある教師を得ること

三　地方學校を發達せしめて地方の社交的、知識的生活の中心と爲すこと

四　農業中學校を發達せしめること

五　少年少女の農村倶樂部を組織すること

六　地方圖書館を擴張すること

七　聯合地方學校の組織を設けること

等である。以下最も顯著なる二三の事例を述べて見よう。

地方學校と地方社會

今日、學校なる觀念の發達したこと、卽ち文明に貢獻し、青年教育に貢獻する學校の職分が明瞭になつたことは著明な事實である。今、亞米利加に於ける學校なる觀念の發達を尋ねて見るに、最初學校は唯子女に聖書を讀み且つ宗教上の義務に對する正しき觀念を與へることを目的と爲した、而して其後此目的が陳腐に歸するやうになつても尚依然として讀方、綴方、算術等の如き單なる形式的知識のみを授けることが學校主要の目的であつた。地理や文法などが學科目に加へられたのは後年のことである。

次に學校は兒童を教育して公民たらしむべしといふ思想が現はれ、歷史科、公民科を學校で教授することとなつた。其後、學校は兒童に健康法を教授せねばならぬといふ理由から新たに生理科を學課中に加へた。更に都會の學校に手工教練及び家政科が設けられて、學校なる觀念に又一轉機を來たした、卽ち此二學科の設けられたのは學校が職工養成に努めなければ

ならぬといふにあつた。最後に今日學校は兒童を教育して人類世界に於ける各自の天分を盡さしめ、人生に於ける一切の關係を明かならしめ、人類の社會生活に適應せしめなければならぬといふ思想が漸く確立しかけてゐる、而して此思想は以上諸々の思想を總括するものと看做すことが出來る。蓋し學校が兒童に學問の初歩を教へ、公民養成の具となり、兒童に健康保身の方法を教へ、職業の準備を與へる等のことは一切此思想の中に含まれて居る、而も斯くするは單に兒童各自の爲めのみならず社會全體の爲めであると主張するからである。

更に此思想の中には親しく兒童を社會生活と接觸せしめよといふ主張と、學校は一箇の社會的設營として、社會全體の爲めに一層有益のものたらしめよといふ主張とが含まれてゐる。而して此二重の主張が相結んで『學校を社會の中心たらしめよ』と要求するに至つたのである。今日、都市學校の中には既に此要求を實現してゐるものも尠くないが、地方學校に於ては果して如何なる程度まで此要求に應ずることが出來るであらうか。

地方學校が社會の中心たるには少くとも左記の五方法がある。素より其中には既に地方、又は都會に於て實施されたものもあるが未だ何處にも實施されてゐないものもある。

一　自然研究科及び農業科を加へ、此二科を中心として在來の諸學科を排列し課程の內容を豐富ならしめること

二　特に學校及び其寰境を改善する爲め生徒の協同一致を奬勵すること

三　教師及び學校維持者を集め互に議論を闘はし、且相互の親睦を計ること

四　成るべく學校を社交の中心、年長者竝に青年會合の中心たらしめ、音樂、美術、社交的修養、文學、農事研究、其他實際地方教育と關係ある一切の事柄を學校に於て行ふこと

五　教師をして農業の產業的乃至一般社會的條件、殊に自己の運命を與にする農村社會の狀態に通ぜしめること

一　教育者が居常兒童の寰境を考慮するの必要なることは今日一般に

承認された教育學上の原理である。自然研究の價値は單に斯く地方兒童の環境に關して明確な研究を可能ならしめる點に於て認められるのみならず、兒童に自然を愛することを教へ、正確なる觀察の習慣を與へ、又後年一層有效な科學研究の準備たる點に於ても認められる。既に聰明な農夫は地方學校に於ける自然研究科の必要なる所以を自覺して來た。是れ卽ち此學科が農耕上の法則に關する知識を與へ、又兒童に田園愛好の念を鼓吹すると同時に、農村に在つても尙知的生活の可能なることを事實上證明するからであらう。故に自然研究は兒童をして農村社會の全生活と親しく接觸せしめる一大要因であると言つても差支ない。

然しながら必ずしも新學科を加へる必要がない、在來の學科でも教授の方法に依つては同一效果を擧げることが出來る。例へば地理科の教授でも、從來の如く日常兒童の見聞する校舍及び家庭等より漸次鄕土の事物を教へ、進んで兒童の想像に訴ふべき事物に及ぼすといふやうな方法を採りさへすれば、優に自然研究の教授と同樣の效果を收めることが出來よう。

其他歷史、綴方、讀方、算術等の諸學科でも、農村社會の生活と活關係を保たしめるやうに之を教授することが出來るであらう。斯かる方法は所謂、農場を學校に引入れ、學校を農場に引出し、父母と教師とに共通の目的を與へ、此目的を達する爲めに兩者の一致協力を促進し、父母をして學校の作業を會得せしめ、教師をして農場の作業を尊敬せしめる所以である。

二　生徒は團體を組織し或目的の爲めに協同一致の活動を爲すことが出來る。而して今日農村社會にとつて最も緊要なものは此協同一致の精神であるから、學校が此精神を涵養するは重且つ大なる一任務と言はねばならぬ。例へば樹栽日、ウォシントン誕生日、開拓者紀念日等を利用し、又は全校展覽會を開催する如きは多くの地方學校が現に實行してゐる所である。

此最適例は現今メーン州に行はれてゐる學校改良期成同盟會である、其目的は(一)學校敷地及び校舍の改良、(二)生徒及び一般人に適した讀物の選定、(三)教室に美術品を備付けること等である。同盟會に三種あつて、(一)各學校で組織される地方同盟會、(二)地方同盟會の役員を會員とする郡區同盟會、(三)

郡區同盟會選出の代表者と學校の卒業證書を有する地方同盟會員とから組織される州同盟會であるが、生徒教師學務委員其他一般人は何人でも規定の會費を收めれば會員となることが出來る(最低會費は生徒一人に付一箇月一仙、他の會員は一季十仙)。同盟會が始めて組織されたのは一八九八年であつて爾來多大の事業を爲し來たつた、例へば、學務委員會を設いてウォシントン、リンカン等の米國偉人の名を校名と爲すことを決議させたり、又は基金調達の爲めに展覽會や演藝會を擧行したこと等は其主なる事業である。而して其調達した基金は教室用書籍の購買に充てられ、後其書籍は同盟會員に貸附けられ、又各季末に於て一組の書籍を同郡區内の他學校から來る一組の書籍と交換することになつてゐるから、各學校は毎年少額の費用を以て多數の書籍を利用することが出來る。繪畫其他の美術品も書籍同樣に取扱はれる。其他、此同盟會の力に依つて校舍の内外、學校敷地等の改良された實例は決して尠くない。而して此事業が教師父母生徒教育當事者一般農村社會を聯絡して協同一致の實を擧げしめることは素より

多言を要さない。

三　學校と家庭との聯絡を密接にし、兩者をして協同一致の態度を採らしめること肝要である。父母は其子を學校に托しながら而も學校の作業を理解せず、學校を以て日常生活と全然沒交渉なものと誤認するを常とするが、何等かの方法を講じて此迷想謬見を打破しなければならぬ。是れが爲めには、父母の學校訪問も有效な方法であらうが、父母と學校とはそれよりも一層親密切實な關係を結ぶ必要がある、即ち教師は更に深く生徒の家庭生活を知り、父母は學校の方法、目的、精神等を一層深く理解しなければならぬ。教師と學務委員との聯合會は從來此目的に多大の貢獻を爲し來たつたのであるから、今後も之を繼續して行かねばならぬ。而して、此點に於ては學校維持者と教師とを以て組織する所謂『ペスピーリア運動』なるものが最も有望な將來を有つてゐると思ふ。此運動に就いては後に詳說する。

四　校舍を以て地方人の集會所と爲し、殊に彼等の學藝美術の修養を促がさんとしてゐるのは市俄古ジョン・スプリ學校である。即ち此學校では毎

年冬季に講習會を開催し、毎週火曜日の夜、音樂會を催し、又市政問題及び家庭改良を研究する男子倶樂部竝に母の會は隔週一回開催される。上級生徒と特に沙翁の研究者とを以て組織する文學演劇會は毎週一回、型の裁り方、衣服の裁ち方等を研究する裁縫及び裁縫手引會、料理研究倶樂部、機械發明倶樂部等は何れも毎週二回夜間開催される。其他美術倶樂部、少年倶樂部等もある、後者は十四歳乃至十五歳の少年の爲めに演奏、競技、朗讀、書籍雜誌の講讀等を行つてゐる。此等の施設が學校をして地方社會の中心たらしめたる上に與つて力あることは素より論を竢たない。

五　教師は啻に生徒の教師たるを以て滿足せず、同時に社會の教師を以て自任しなければならぬ、換言すれば農村社會の指導たる資格を有たねばならぬ。然るに今日の地方學校教師は多くは一時腰掛的に奉職し、機會あらば直に都會の學校に轉ぜんとしてゐる。加之、彼等の俸給は往々低廉でもあり又、彼等は往々無經驗でもあつて、僅に教室内の授業を爲し得る外何の餘力もないやうである。斯やうな教師の存する間は如何なる良策も十分其

效を奏し得ない、此點から觀て地方教師は須らく地方社會を理解し、農民が常に顧慮する問題を理解せねばならぬ、換言すれば地方教師は地方社會學を知らねばならぬ。師範學校は地方社會學を必修科と定め、特に地方教師たらんとするものに之を課すべきである、教員講習所や、巡回講讀會は須らく此種の施設を試みなければならぬ。是れ實に地方學校と農村社會とを接近せしめる上に肝要な手段である。

ヘスピーリア運動

父母と教師、卽ち家庭と學校との意志を疏通するは何れの國でも教育上緊要のことと認められてゐる。亞米利加の地方に在つては父母の學校に對する同情又は理解が著しく缺けて居り、從つて識者は競つて是れが緩和策を講じてゐる。就中ミシガン州に行はれてゐる施設が最も著明なものであると思ふ。斯かる施設は今日專ら地方學校に限られては居るが、各郡には毎年一回乃至數回教師父母聯合會を開き、擧行事項は教師及び農民の

何れにも興味あり實益ある方法に依つて教育上の諸問題を講究することとしてゐる。

此運動は全くミシガン州獨得のもので、其開始者は自家獨創の考案に基き他の示教を俟たなかつた。其後、他地方、乃至他州にも之と同樣の運動が續々繼起した。吾人は便宜上此種の運動を總稱して『ヘスピーリア運動』と名づける。蓋し、此運動はヘスピーリアの地に發生し、發達し、成功したからである。

ヘスピーリアはミシガン州ケント郡グランド・ラピッツの西北約四十哩の田舍町、否、田舍村で、鐵路を距ること十二哩乃至十五哩、オシエーナ郡の東端に位してゐる、而して附近一帶の地方は地味豐饒なる耕地であり、地方民は一般に進取敢爲の氣尙に富み、聰明なる所謂亞米利加農民の典型とも謂ふべき種類に屬し、概ね蘇格蘭人の後裔である。一は彼等生來の精力にも由り、一は恐らく四隣の村落と隔在する爲めに、其固有の制度施設等を發達せしめる必要上、彼等は優良な學校、農家祕密組合(一八六七年ウォシントン州に

起つた組合で、農家の利益增進を期し、生產者と消費者とをして直接取引せしめ中間問屋の手を避けんとする組合)其他各般の進步的施設を尊び、爲つて其維持發達を期してゐる。

オシエーナ郡には數年來、普通の郡教師協會が組織されて居たが、ヘスピーリアは郡の中心地を遠く離れて居る所から、其地に該協會を開催することも出來なければ又、郡の西部に開催される協會に出席することも困難であつた。然るに數年前偶、協會所屬の新進聰明の教師等は別に特色ある協會を設立せんことを提議した。其時一部教師より會員を單に教師にのみ限らず、地方農民をも之に加へて益、協會の力を大ならしめるが妙策ではないかとの意見が出て、遂に其通りに決定した。是れは實に一八八五年より八六年に亙る冬季の事であつた。而して此運動の殊勳者はヘスピーリアの人であつて協會の前會頭ィー・エル・ブルックス及びミシガン州ベントン・ハーバーの人シー・エヌ・ソーウァーズ博士である。左にブルックスの言を引いて見る。

討論及び論文朗讀に加入する人數は教師側と父母側と略〻同數ならしめるやうに會の擧行事項を定めたのが最初から大なる人氣を博した。此會合は農民にとつて冬季絶好の社交機關であつた。會は土曜日に開かれ、會場と定められた學校は常に滿員の盛況を呈した、而して會場は同一學校に限らず順次他の學校にも及ぼすこととした。此會合は頗る成功を博し、爾來郡内到る處に類似の協會の設立を見るに至つた。

又ディー・イー・マックリュアーは一八九六年より一九〇〇年に亙つてミシガン州小學教育監督代理となつた人であるが、一八九二年オシエーナ郡の學務委員に選任された當時、非凡の才腕を發揮し、教師父母聯合協會を以て兒童の眞の幸福竝に諸般の改良を營むに最も有效の方法と考へ、第一に地方學校各學年の生徒に適する圖書目錄を作製し、又地方講習科及び學校附屬圖書館の設立案を提議して聯合協會の採用する所となつた。第二に氏は東部オシエーナ郡及び西部ニューエーゴー郡(オシエーナ郡の東隣)相互の利害を一致せしめんが爲め、一八九三年オシエーナ、ニューエーゴー二郡農民教師聯

合協會を組織した。マックリュアー自から次の如く語つてゐる。

本協會は木曜日より土曜日まで連夜開會する。麗に亞米利加第一流の演說家數名來たつて本協會の爲めに演說を試みた。本協會に對する余の理想は(一)學校の維持稅金を納附する農民を初め家族、教師、生徒等を結合し一致協同して地方學校教育の改善に當り(二)僻遠なる田舍各地方に健全なる悅樂機關を供給し、(三)家庭及び學校に優秀なる亞米利加文學の趣味と、高尚なる公民の理想とを扶植し、(四)地方學校をして品性陶冶の大任を果たさしめ、番人なき校庭、不潔の校舍、無能教師等の如き品性破壞の要因を除去せんとするに在る。而して此等の改良事業は一に農場家庭學校三者の同情一致から生ずる健全なる教育的情操の力に依ることは明かである。然らば此事業の效果は如何。素より理想の成就するは遲々として僅々數年の能く測定すべからざることは多言を俟たない。吾人は如何なる力を以てしても、畢竟四圍の事情を沒却無視することは出來まい、寧ろ是れが利用を計り徐々に利導するが得策である。それは兎に角、此事業直接の結果を列擧すれば、學校、校庭、附屬校舍、教室、教師、地方人讀物等の改良である。從

來一生を勞働にのみ捧げて寧日なかつた農民は、此運動の爲めに亞米利加有數の雄辯家の演說を聽き、世界の名著を讀むに至つて其生活益〻幸福となつて來た。斯く幾千の人々は現にヘスピーリア協會に依つて感奮し、啓發され、進善向上の途に上つて居るのである。

爾來此運動はミシガン州内の他の諸郡にも波及し、更に今日合衆國の東部西部諸州に普及するに至つた。今左に其著名な二三の事例を略述して見よう。

一八九七年ミシガン州ケント郡に一箇の教師學校維持者聯合協會が組織された。ヘスピーリア協會は毎年一回開催されるのであるが、ケント郡の協會は巡回制であり、會員は通例、教師學務委員農民等より成り、往〻生徒をも加へることにしてゐる。毎年五六回(十月乃至三月)開會し、其都度、金曜日の夜、土曜日の午前及び午後、會合を催し、從來出席者數平均約五百、内約一割は教師であつた。ケント郡の協會は會員から會費を徵收しない、講演費は郡の教員講習所基本金を以て十分に支辨される。然し郡に依つて會費を

徵收する所がある、例へばオシエーナ郡の如きは五十仙の會費を徵收してゐる。

毎年一定の日時、一定の場處に唯一回だけ開會するオシエーナ郡の協會と巡回的に數回開會するケント郡の協會との優劣は主として其地方狀況の如何に依つて定まるものである。ミシガン州は主として前者に則つてゐるが、後者に類似した協會もないではない。然し組織の形式如何は畢竟重大問題ではない、ヘスピーリア運動の根本趣旨は形式の如何を問はず、教師と父母とを同一立場に立たせ、同一會場に集め、共通問題を協議せしめんとするに外ならない。地方教育行政當局者が現に教師父母の聯絡に努力してゐることは明かな事實である、例へば、アイオウァ州の如きは、學校の福利を增進せんが爲め特に母の倶樂部を組織し、又多數の地方町村では郡長が卒先して修學旅行團を組織し、又は對校競爭を開き、其都度父母の臨席を奬誘してゐる。

オハイオ州には所謂オハイオ學校改良期成同盟會が組織されてゐる。

其目的は(一)州内の公民に健全なる教育的情操を涵養し、(二)學校を黨派政略から引離し、(三)教授を正當の報酬ある職業と爲すことに在る。最近ミネソタ州では、郡内の學務委員が郡長の召集に應じて毎年一回教育會議に出席すべき旨の法律を制定した。當日學務委員は旅費一哩に附五仙、日當三弗の支給を受ける規定である。而して此會議は其都度大成功を收めて來た。ペンシルヴェーニア州の郡講習會も亦一般公衆の出席者頗る多數である。會員は現に教師に限つて居るが、父母をも之に加入せしめんとしてゐる。カンザス州では、郡長は父母協會及び學務委員協會を組織し、共に學校事業の改良を期してゐる。其他の諸州でも現に此種の方法を講じつゝあることは事實である。現に紐育州ニュー・ボールトには、州立師範學校長マイロン・ティー・スカッダー指導の下に同樣の運動が起つて居り、又、メーリランド州ボールティモーア郡には、四箇の小學校を併合して一箇の郡立農學校を設立し、盛んに地方の開發と學校對地方社會の理解及び同情を增進してゐる。

第四章　家庭と學校との關係

廣義の社會的機關としての學校の效果如何は主として、そが家庭との緊密なる接觸及び協同一致の程度に據つて決定される。學校と家庭とは歴史的に親密な關係を有すべき十分の理由がある、卽ち、原始時代の家庭は大部分兒童の教育を掌つてゐることは既に前述の通りである、否原始時代に限らず、近世に至つて家庭が複雜緊急な經濟的壓迫の爲め、止むを得ず或種の教育的活動を放棄して他の機關に委任したとはいふものの、家庭が其委任した他の機關の事業に對して沒交渉たり沒興味たり得べき筈がない。縱し教育が家庭の手を離れたとしても、兒童の體育、智育、德育の成否は全く家庭の同情及び後援の有無に據ることは明白である。蓋し學校が家庭及び家庭の利害や見地等と沒交渉に至つたのは、吾人が前に指摘した、あらゆる社會的機關は因襲の久しき遂に惰性を生じ社會適應性を失はんとする傾向の一例と看做してよい。

斯樣な事情の下に從來屢、家庭と學校とは互に疎隔して痛痒相感ずることなきに至つた。詳言すれば家庭は久しく擔當し來たつた教授の任務を免れたのであるから、學校が當然其任務を盡しつゝあるものと思ひ込み、教授の結果とは深き關係を有するにも拘はらず往、煩瑣なる學校の問題や方法に對して全然無關心の態度を採るに至つた。而して家庭は自己の利害と學校の理想とが往、相反するものと考へ、無雜作にも學校を敵視するやうになつたのである。然し學校に對する興味や理解が家庭側になかつたならば、教授の效果は必然大削減を受けるに相違ない、況や家庭が學校を敵視するに於ては尙更である。

建國當初に於ける合衆國の教師は今日と異なつて普通人と自由親密の交際を爲し、普通人と共に生活し、暫時各家庭に同居するを習慣としてゐた、（巡回寄寓といふのがそれである）。故に如何なる點から觀ても教師は地方社會重要の分子たり原動力であつた。然るに今日の教師特に都會の教師は、其教子の家庭を熟知する機會が殆どない、否、小村落の教師でさへ實際は

土地の人々を熟知し得べき筈なるに、未だ一般に教子の家庭から歡迎されてゐない。

家庭と學校とを結合して或活きた協同關係を保たしめ、兩者の融和を助長することは目下の教育的急務である。諸種の公共教育機關は、其教育事業を擴張して地方の成年者にまで之を普及することが一般に至當視されてゐる、而して父母と學校とを結合することは實に此學校教育普及事業の一部分に外ならない。」而して父母學校二者の聯絡は、獨り父母を啓發するのみならず、又直接學校自身の效果を增すもの、換言すれば家庭と學校との協同一致は父母の見界を廣めると同時に教師の見界をも廣めるものであるから、社會上大に緊要のことに屬する。廣く且そ深く生徒の家庭生活に通ずれば、教師はそれから教育上必要な刺戟と啓發とを受けるものである。抑、教師は其狹隘な生活や瑣末な氣苦勞の爲めに見識を狹ばめ想像の自由を妨げられる結果、彼が生活する社會而も學校が當然何等か寄與すべき一般社會の生活を理解し得なくなるのが常態であるが、若し彼等が地方の社

會生活を研究し、地方人と自由に交際し、同情を以て父母及び家庭に接し、生徒を養育する家庭の事情竝に生徒將來の實際生活に必要な教育に就いて熟知する所なくんば學校は殆ど社會に大なる貢獻を爲し得まい。合衆國の如き民主的の社會では、輿論輿情の力が學校改良の事業を促進するものであるから、特に一般人の教育的輿論乃至輿情を鼓吹しなければならぬ。

學校と家庭との協同一致を來たす適當の方法を示せば、先づ父母が授業參觀の爲め又は校長、監督等と協議する爲めに自由に學校を訪問するのである。學校長は兩者の一致協同を促がすべき樞軸であり、兩者の親交を結ばしめる力を有つてゐるから、父母をして自由頻繁に學校を訪問せしめるほどの信用と愛顧とを地方社會から得ねばならぬ。或は所定の日時に父母の授業參觀を許し、或は運動會を觀覽させ、或は教師の幻燈入講義を聽かせ、或は生徒の討論會、文學演習、卒業式等に臨席せしめたならば父母の學校訪問は極めて容易に行はれるであらう。又、生徒の成績品展覽會は獨り生徒に限りなき喜びを與へるのみならず、父母にとつても亦それに劣らぬ快

事となるであらう。生徒學業の進歩は教師の奬勵と父母の奬勵と兩々相俟つて始めて出來るのであるから、父母が時々生徒の成績品を展覽することは、學校の作業に對する父母の理解及び同情を促進する上に與つて大に力ある。

或地方には『親の夕』と名づける教師父母懇談會の設けがある。是れは父母共に日中よりは夜分に學校を訪問することが容易であるから特に夜間を選んだのである。此日學校では正課を施し、放課後生徒に簡單な饗應を呈する、而して生徒は食事を終へて歸宅し、父母と教師とは短時間の協議會を開くといふ順序である。此方法は小學程度よりも寧ろ中學程度に適し、英國バーミンガムなるジョージ・ディクソン中學校は多年之を實施し來たり、今日では此學校の特色となつてゐる。(ディクソン中學校では一年一二回開催する)。

然し學校と家庭との親密な關係及び同情を促進する最も有效確實な方法は地方狀態の歸納的研究及び協同一致的活動を目的とする篤志親の會

であらう。合衆國の大都會では此種の會が頓に增加し、啻に學校の事業を助長するのみならず、無學貧困な家庭の生徒を深く顧慮して其就學上の便宜を計つてゐる。斯かる組織は父母をして子弟教育上須らく學校と協力するの責任を感ぜしめる上に最も有效なものであらう。凡そ此種の父母教師聯合會は啻に大都會に必要なるのみならず、小都會否、地方村落に於ても亦同樣に必要である。ガーバーは『教育進歩年鑑』で次の如く述べてゐる。

地方學校問題全體に關聯して最も悲しむべきことは恐らく教育に對する家庭の無關心的態度であらう。現に地方農村に勃興しつゝある農業思想は此悲境を轉ずるに多少の助力となつてゐるが、學校改良の事業は勿論教師の力のみでは出來ない、兒童教育の事柄は必ず家庭の助力及び協同を要する。兒童は他の如何なる教育機關にも優して家庭の感化を最も多く受けるものであるから、父母の毀譽褒貶は實際學校の作業を助長し又は阻碍するの力を有するものである。

父母教師聯合會には二樣の會合を催す必要がある、一は父母教師相集り

て相互に興味ある問題を論議し合ふもの、二は各年級の教師が各自其受持生徒と會合するものである。或論者は後者を以て父母教師聯合會を有效ならしめる基礎であると看做してゐる。母、教師、生徒相互の親密を全うするは教育上誠に重大のものであるから、遂に父の同情を博し、父母相携へて聯合會の大夜會に出席する組織となつたのである。

教師及び學務委員中には、此種の會が或は學校の組織乃至事業に對して不當な制肘を加へることなきかを憂慮するものもあるが、會の目的は學校と家庭との協同一致に存すること、又地方社會の輿論は公立學校の既定行動に對する根本的干涉を許さぬことに想到すれば斯くの如きは一片の杞憂たるに過ぎない。

父母教師聯合會は既に學校教育上有效な原動力たることを證據立てた。合衆國に居住する數多の異種民を融和させ、貧窮な家庭を救助し、學校の設備を自由に父母に公開し、夜間彼等に家庭手藝習得の便宜を與へ、生徒竝に其父母に社交的乃至文學的娯樂を供することは此會の主なる事業である。

而して此會の事業は未だ完成の域に達しないが從來收め得た美果は頗る多い、今左に其顯著なる事例を略述しよう。

抑、父母教師聯合會の起原は、最初幼稚園の媒姆と母親とが互に兒童の事柄や學校乃至家庭の作業等に關して談合したる所謂母の會に始まつてゐる。此會が漸く各地方に普及するに至つて正規の組織を具備した母の倶樂部といふものが成立した、然るに兒童の教育は獨り母親のみ關係すべき事柄ではなく、須らく父親の協同に俟つべきものであるといふ考から、所謂父母の會が現はれ、更に父母倶樂部又は父母教師聯合會の成立を見るに至つたのである。母の倶樂部及び父母教師聯合會の組織を以て其主要目的の一とする所謂全國母の會議といふものは、合衆國の諸州に組織されてゐる幾百の婦人倶樂部を糾合したものであるが、是れ又家庭と學校との聯絡を計る上に大なる貢獻を爲した。

父母教師聯合會中恐らく最も成功したものは、一九〇五年五月德育協議委員會創設に係るボストンの聯合會であらう。此會の目的は(一)家庭と學

校とを聯絡し(二)兒童養育法を父母に教へ(三)附近地方の社交的利益を增進するに在る。第一の目的を達する方法として、兒童の智育、德育、體育を進むべき教師の事業を父母に理解せしめ、又父母が取扱ふべき種々の問題を教師に理解せしめんが爲めに、毎月の例會に父母教師の談話會を催し、閉會後茶話會を開いて双方の意志を疎通するに努めてゐる。先づ教師側から提出された主なる話題を擧げれば、父母教師の協力一致し得べき事柄は如何、教室の清潔を保つ方法、兒童は如何に夜を過さすべきか、生徒の喫煙に對する處置如何等であり、父母側から提出されたものは、兒童の喧嘩、賭博、喫煙、小說耽讀、芝居見、駄菓子買食らひ、街上の遊戯等に關するものであつた。此談話交換の結果、委員を選んで兒童に如何なる娯樂を供すべきかに關する調査を遂けたこともあり、又街路、庭地又は空地に於ける不潔狀態は兒童の德義心を薄弱ならしめるといふ一人の母の提議に依つて、直に調査委員を選任し其改善を當局に迫つたこともある。此種談話會の結果、父母は益、教師の問題に通じ、教師は又父母の見地に立つて兒童を理解し得るに至つた。

此種の會は家庭と學校との協同一致を促進したのみならず、進んで其第二の目的、卽ち父母をして兒童養育法を自覺せしめた。一九〇五年の統計、に據れば、兒童の體育に關する講演五回、德育に關するもの二回、而して前者の中、三回は該地方の身體檢査官の講演であつた。父母に體育智育德育上の知識を與へる點から觀て此種の講演は多大の效果を現はしたものである。斯く父母は其兒童の教育に對して切實熱心なる興味を感じ、從つて教師乃至學校に對する從來の無關心的態度を一變するに至つた。茶話會を催して教師と父母とが打解け合ひ、一杯の茶を啜りながら互に兒童教育に關して懇談するは如何にも興味多いことではないか。實に此種の事業は學校制度と深き關係を有するものであるから、教育事業管理の當局者たる學務委員の監督の下に置くが至當である。學務委員は此極めて民主的組織なる父母教師聯合會を利導し、聰明なる教育的輿論の喚起に努め、相提携して教育事業の振興を計らねばならぬ。

第五章　社會中心としての學校

學校任務の擴張

學校をば完全適當なる社會生活の中心と爲し、以て社會生活の潮流に浴せしめる方法如何といふことは今日焦眉の緊急問題である。然らば何故斯かる要求が起つて來たか、何故此要求が一代以前に起らずして今日特に痛切となつたか、學校が單に兒童をのみ教育するに止まつてゐる間は未だ十分に其職能を履行し得るものではない、宜しく總ての時代、總ての階級にとつて生活の中心たるべしといふ思想が何故斯く迅速に普及するに至つたか。此等の問題に答へるに當つて吾人は先づ簡單に歷史上の事實を回顧する必要がある。

抑、教育は野蠻人の間に現はれて以來今日に至るまで悉く社會的活動であつたことは疑ふべからざる事實である。唯此社會的活動を遂行すべき機關と、それが他の社會的機關に對する地位とは、夫々其時代の社會狀態に

依つて一樣でない。進化の一般原理、卽ち無差別のものから分業に依つて獨立の諸機關に發達分化することは特に教育史研究に於て顯著な事實である。勿論最初學校は截然獨立した一箇の機關として存立せず、而して教育は家庭及び地方社會に於ける日常生活中の行事に過ぎなかつた。然し教育の果たすべき目的が次第に增加し、而も其目的漸次卑近より高遠に赴き、教育の手段も益專門化するに從つて社會は截然たる一箇の機關を必要とするに至るのである。若し特殊の機關を設けざれば到底其時代の要求に應じ得なくなるであらう。斯くして先づ古代に於ける哲學學徒の大團體たるプラトーン學派、ストア學派、エピクーロス學派等の學校が起り、次に教會事業の一面としての學校が現はれた。而して終に教會と國家とが益分離するに從ひ、國家は教育機關の正當な設立者、經營者たるの地位を確立するに至り、玆に近代式の公立學校又は准公立學校の出現を見るに至つた。教育作用が教會から國家の手に轉じたことを以て一大恨事と看做す論者も多いが、國家が教育作用を掌握せんとする要求は、畢竟職業の分化上必至

の趨勢であるから之を悲觀するの必要はない。

國家の發展と共に國家と社會との間に一定の區別を生じた。所謂國家とは政府の立法及び行政機關に依つて團體生活のあらゆる力を一律に組織するものであり、又、社會とは政治、政府乃至制度上の意味に於ける國家とは毫も關係なき無數の方法で、人類日常の交際の間に行はれる團體生活のあらゆる力が、國家の場合に比して漠然ではあるが、却つて自由に作用するものの謂である。國家が教育を掌握する結果として學校管理及び教授の機關は自由、多岐、伸縮自在な社會生活の樣式に準據することが出來ず、久しく學校は一定數の人々に知識材料を供給することを專らにしてゐた。故に民主思想が從來社會と沒交渉なる學校に浸潤して來た時でも其處に徹底的改造を果たすことなく、纔に別箇の一要素を附加するに止まつた、卽ち公民教育といふことがそれである。公民教育の意義を明かにするにつけても、國家と關係するのみで社會とは全く沒交渉なる學校と、あらゆる點に於て團體生活の潮流と接觸する全然社會化した學校との差別が一層鮮明

となつて來る。一口に公民と言へば、一般には明かに政治上の事柄と考へられるであらう、換言すれば、そは偏に政府乃至國家に關する事柄であつて、廣く社會に關係ある事柄であるとは考へられまい。詳言すれば、思慮ある投票を行ひ得ること、國家の立法行政に參與し得ること、是れが取りも直さず從來一般に思惟された公民資格の意義であつた。

然るに吾人の團體生活は俄然として覺醒した、而も覺醒の結果、吾人は政府の制度乃至事柄が僅に人生の重大目的及び重大問題の一小部分に過ぎぬことを發見するに至つた。而も此一小部分は國家又は公民の概念から全然排除された廣き家庭的、經濟的、科學的考察を參照せずんば到底適切に說明し得られないことを自覺した。政治上の問題中には人種問題もあり、言語習慣の同化問題もあるが、就中極めて重大な政治上の諸問題は、其根柢たる產業上乃至商業上の變化調節等から生ずるものであるから、立法又は行政活動の上から解決し得べきものでなくて、偏に一般社會の同情と理解とを增進することに依つてのみ出來得るのである。凡そ難問題を解決す

るには實際の事實と、それに含まれた諸々の關係とを科學的に理解しなければならぬ。國家と社會との疎隔、政府と家庭及び職業との疎隔は漸次緩和されて來た。勿論斯やうな疎隔は皮相的人爲的のものなることは疑ひない。吾人は諸種の活力の複雜なる相互作用と交涉してゐるものであつて、所謂政府は僅に此活力の一小部分に過ぎない。此處に於て公民といふ語の意義內容が著しく擴大し、苟も社會の一員として有する總ての關係を含む言葉となるに至つた。

勿論今日の學校には斯やうな意味での公民教育は未だ存しない。然し公民の眞意義を明かにすれば學校の目的の那邊にあるかを會得することが出來、學校の作業乃至方法に對する從來の思想を一變するに至るであらう。學校は從來の如く獨り兒童に對してのみ日中單に教授を施してゐたに過ぎないが、それだけでは未だ其本務を盡したものとは謂はれない、更に進んで其活動範圍を廣め、社會の成年者に對しても教育的影響を與へる必要があるといふ思想が現はれた。蓋し此思想の由つて生じた原因は卽ち

吾人が社會生活の有機的統一を感じた結果、學校は更に其關係を廣め、更に多方面から受取り、更に多方面に給與するの必要を感じた點に存する。

從來の考に據れば、最初學校は單に智的見地から或種の事實と眞理とを教授し、且つ或種の技藝を傳授するのが第一の任務であるといふのである。其後、學校が公共的又は普通的となるに至つて此思想が擴張し、公民をして有爲正直の投票者、立法者たらしめることを其本務とするに至つたが、尙此目的を達する手段は智的教授に依るべきものと考へられてゐた。兒童に合衆國の憲法を教へ、國家より州郡を經て郡區及び學區に至るまでの各種政治機關の性質及び作用を教へることは、公民たるの準備を生徒に與へる所以と信じられてゐた。故に今より約十五年乃至二十年前、學校が吾人の生活全體の爲めに盡すべき一切の事柄を爲してゐないといふ意見が現はれるや否や、一層完全な一層廣い公民科の教授を要求するに至つたのは極めて自然である。今日、學校をして社會中心たらしめんとする要求の起つた事情は、恐らく當時の公民科教授運動の現はれた事情と其趣を同じくす

るものであらう。政治生活の機關が畢竟一箇の機關たるに過ぎず、而して其當不當、有效無效は全然其根柢たる社會的及び產業的原因に據つて定まることを明かにした。斯くして純然たる智的教授の效果に對する吾人の信念は大半失墜するに至つたのである。

今、學校が社會中心たるに至つた四箇の事情を少しく詳述して見よう。

第一 吾人相互を接觸する機關が遙かに有效輕便となつたことである。輓近諸般の發明は運輸交通の便を增し、又圖書雜誌新聞等に依る思想報道の傳播を頻繁容易ならしめたから、如何なる國民、人種、階級、宗派も最早他と疎隔し、沒交涉たり、又他の願望及び信仰を排斥したりすることは事實上不可能となつた。遠隔地との交通が安値迅速に行はれる結果、亞米利加は世界各國民及び各國語の輻輳地となり、又產業集中の結果、各階級は相互緊密に協同依立しなければならぬ有樣となつた。頑迷固陋、自己の宗教的乃至政治的信條を無上視する信念すら、一度各人が互に面接するか、又は絕えず他人の思想に接する時は甚だしく動搖を來たすこととなる。故に合衆國

都會生活の鞏固なる結合は、近代發明が招致した人類の協同團結の一方面に外ならない。

人類が其順應した自然的産業的、知識的環境から急激に變轉する爲めに幾多の危險の生ずること、又異種の人民を急激に結合する結果、大なる動搖を來たすことは勿論であるが、同時に種々の方面に有利の效果を及ぼすものなることも爭はれない。善惡は兎に角、今日の新聞紙の如きは其一産物である、又、各人が容易に讀書の便を得る公立圖書館も、公會堂も講堂も等しく其産物に外ならない。如何なる教育機關でも、之を利用して社交乃至知識交換の便益を增進するの具と爲し、該機關の作用に伴ふ一切の危險を排除すると同時に、之を利用して積極的に生活の全標準を高める原動力たらしめずんば未だ完全なる教育機關と謂ふことが出來ない。

諸々の階級、諸々の人種の混交する結果、合衆國大都會に於ては斯かる要求と機會とは二つながら增大して來た。市俄古市内の或區の如きは區内に四十種の國語が行はれるといふことである。亞米利加には愛蘭、獨逸、ボ

ヘミアよりの移住民が本國にもなき大都會を組織してゐるもののあることは著明なる事實である。今日、公立學校が兒童教育に依つて種々の人種を合衆國の制度に同化する有樣は實に世界未見の偉觀と謂はねばならぬ。然し是れは唯兒童の教育に止まつて居つて、未だ依然として成年者教育を顧みない處置である。而して兒童の同化は、父母の家庭が比較的無頓着なる間は到底其完全と確實とを期し難い。果然、最近、紐育及び市俄古二市の有識者は兒童が或點に於て餘りに早く亞米利加化せず、却つて餘りに早く其國民性を喪失する傾向あることを警告した。卽ち兒童は自由の傳習、音樂、美術、文學等の積極的乃至保守的價値を沒却するが、未だ完全に其新國家の習慣に融合し順應するに至らぬから、新舊二者の間に浮動するの常態となつてゐる。甚だしきは兒童は父母の服裝、舉止、習慣、言語、信仰等を蔑視することさへもある。然し此態度が皮相的に習慣を模倣するの態度に比して遙かに實質あり價値あることは否定されない。かのハル・ハウスの新勞働博物館設置の主要動機は父祖の産業的習慣、換言すれば現行産業には既に

不要に歸し、廢棄された紡績機織採鑛等の方法に於ける手練、技術、竝に歴史的意義を現時の兒童に實見せしめんとするにあつた。斯くして兒童は最初輕侮の念を以て眺めてゐた父祖にも尙嘗て知らざる美質あるごとに氣づいた。其他、地方の歴史及び過去の國民的名譽を紀念すべき幾多の協會が設立された結果、家庭生活は其面目を一新し、內容頗る豐富なものとなつた。

第二　相互の交際益廣く相互影響の範圍增大するに從つて、社會的訓練及び制裁力が弛廢するに至つた、而して是れ又等しく危險を生ずべき機會を有つてゐる。勿論、信條、權威の排斥運動は大に諒とすべきものであらうが、在來の宗教的乃至社會的權威の弛廢するは慨はしい現象と謂はねばならぬ。獨立不羈の判斷と、之に伴ふ個人の自由及び責任は、結局一時的損失を償ふに足るものであるが、此間に實際一時的損失の存することは爭ふべからざる事實である。父母の權威は大に失墜して兒童の行爲を制御する力に乏しくなつた、恭敬の念は各方面に於て甚だしく衰頽し、喧擾、粗暴は愈、

猛威を逞しうしてゐる。父母先輩教師等の權威に對する輕侮の念が增長するに從つて從順の心は愈、頽廢する傾向がある。夫婦親子の如き家族の血緣すら何ほどか其恒久性と神聖とを失ひ、又從來超自然的制裁と信者の日常生活とを左右した教會は漸次其拘束力を失はんとしてゐる。其他人間の德性を向上し、禮節あり、品位あり、秩序ある生活を爲さしむべき在來の機關は概ね其力を失つてゐる。斯かる趨勢を目擊して社會は全然受動的傍觀の態度を持することは出來ぬ、須らく此損失を償ひ、新要求を滿たすべき新機關を發見せねばならぬ。今や社會は其事業を單に兒童教育にのみ限局して止むべきではない。兒童に聰明なる教育が必要なると同じく、成年者にもそれが必要である、況んや兒童の學校教育年限は甚だ短期間ではないか。斯くて所謂成年者の補習教育は刻下焦眉の急務となつたのである。

第三　智的生活、卽ち知識上の事實と眞理とは今日ほど他の人生一切の事柄と鮮明緊密の關係を保つてゐた例はない。從つて純然たる智的教授は從來に比して其意義と價値とを減少するに至り、反對に、日常の職業と實

境とは從來よりも深く其意義と價値とを理解するの必要に迫つてゐる。學問は嘗て殆ど全く日常生活を超越し度外したものと看做され、又事實さうであつた。物理學、獨逸語、乃至支那歴史を學ぶは高雅なる修養的學問ではあるが、日常生活の立場から觀れば多少無益の觀がないでもなかつた。否、今日に於ても所謂修養とは普通に斯やうな意味を含むものと考へられてゐる。學問の有用なことを感じた時代に於ても、そは社會の比較的少數者、而も或特殊の階級に限つてのみ然か感ぜられたのである。例へば醫師、辯護士、僧侶等は各、其職掌上學問を必要としたが一般人には素より斯かる觀念なく、唯、學問に對して盲目的歎美を捧げてゐたに過ぎない。近來教師の職分下落に對する世の嘆聲は、嘗て人を教へるに足るだけの知識を有たば、それだけで既に其人の屬する教師階級が一般の盲目的歎美を博した時代のあつたことを偶、反證するものではないか。斯やうの嘆聲を發するのは、抑、知識が一般に普及され、何人も或點に於ては他人の教師たり得ることとなつた今日の時勢の變化を深く省察せざる結果に外ならない。

現代社會に於ては實際各種の學問—社會科學たると自然科學たるとを問はず—は各方面に於て直接人生の實際的行爲を刺戟し、それと接觸せずんば止まざる勢である。例へば獨逸語の知識の有無に依つて人間の優劣を判斷し、其知識あると無い者とを截然區別するが如きは未だ學問の眞價を發揮し理解し得たものとは言はれない、却つて獨逸語の知識は社交と通商とを容易ならしめる一箇の樣式に外ならぬものと考へてこそ、眞に學問の活用及び意義が存在する譯ではないか。物理學は重要ではあるが餘りに懸け離れた法則の發見を主とする自然哲學ではなく、吾人の日常生活に熱、電氣を應用して絶えず吾人に親炙する一組の事實に外ならぬものとなつた。又生理學、細菌學、解剖學等は各人の健康と都市衛生とに直接の關係あるものと考へられるに至つた。而して此等の科學が取扱ふ事實が、假令科學的方法に據らないまでも、兎に角吾人の好奇心に訴へるやうな方法を以て利用されてゐることは日々の新聞紙上に見ることが出來る。從來吾人の日常生活と全然沒交渉のものと認められた學問が、今日それと密接不

離の關係を保つこととなつたのは著明の事實である。換言すれば吾人は現に應用科學の時代に生活し、而して直接間接此應用の影響を免れることが出來ない。

他方に於て生活が益專門化し、分業が甚だしくなつて行く結果、如何なる事物事件でも、單獨にそれ自らを說明解釋することが不可能となつた。工場に於て複雜なる或作業の一部分を擔當し、或機械の或部分に限られた仕事に從つてゐる職工の生活は、實に現代社會生活の典型と看做すことが出來る。從來の職工は其從事する仕事及び方法の全般に亙つて多少の知識を有つてゐた。假令彼は一々親しく其仕事に接觸しなくても、仕事全體が極めて小規模であり又、極めて卑近なものであつたから、容易にそれを熟知することが出來た、從つて彼は自分の從來してゐる仕事の意味を十分に理解し、それを以て仕事全體の缺くべからざる一部分と見、又實際に然か感じてゐたから彼の眼界も從つて廣大であつたのである。然るに今日の事情は全く之と背馳してゐる、卽ち吾人は各自特殊の仕事に從ひながら、殆ど其

意味及び關係を理解してゐないかと思はれる。是れは仕事全體が廣汎複雜なると同時に極めて專門的であるから、直接それを熟知することが出來ない爲めであらう。故に之を知らんとするには必ず敎授又は意識的解釋に依らねばならぬ。今日或大なる專門學術通信學校の繁昌するのは、主として此種の學校を修めんとする者が、立身出世の準備といふ功利的希望と、特殊の仕事に關係ある事柄を專門的に學ばんとする熱誠とに驅られた結果であらう。又最も賣行のよい或月刊雜誌は殆ど全誌面に亙つて通俗科學に關する記事を載せ、一般讀者の興味を促がしてゐるのは、素より此大勢に順應した結果と認めることが出來る。殊に英國の大學敎育普及運動は其最も顯著なる典型である、卽ち其通俗幻燈講話は痛く一般の人氣に投じたものと見える。苟も無味乾燥の生活から勞働者を免れしめんとすれば、社會は何等か一定の機關に依つて彼等周圍の事物及び其業務の科學的基礎及び社會的關係を十分に敎授しなければならぬ。

第四 近代の生活の趨勢に省みて今日よりも更に長期に亙つて敎授を

繼續することが必要である、卽ち補習教育といふのがそれに外ならぬ。兒童の教育年限を延長することは今日の急務である、蓋し幼時から兒童をして生業に就かしめることは兒童の完全なる發育を妨げるものであるといふのが今日殆ど教育上の定說となつてゐる。而して此定說から次の系論が生じて來るが、是れは未だそれと同等の承認を受けてゐない。それは卽ち可成り固定した社會的職業の教授年限は或一定の時期に達すれば、それを短縮することが出來るといふのがそれである。然し辯護士や醫師が若し大成を期するならば終生不斷の研究を要する。是れ卽ち其周圍の事情が絕えず變動して須臾も停滯することなく、新事實新事件頻々として彼等の面前に現はれて來るから、從來の知識技術を以てしては到底此趨勢に適應することが出來ない爲めであらう。

是れは總ての階級や職業に通じて少くとも或程度までは事實である。社會、經濟、乃至學術は前代未曾有の速力を以て進步してゐる、從つて此趨勢に順應せざる教育機關は到底現時の教育的要求を滿足することが出來ない。斯く社會の進步が些の澁滯なく行はれるものならば、教育も亦之に和して著々不斷の進步を遂けねばならぬ。例へば十八歲の少年を教育して彼が一年後卽ち十九歲に達して遭遇すべき境遇に對して直に順應せしめ得るやうにすることは出來るが、彼が例へば四十五歲に達して遭遇すべき境遇を見越して教育することは殆ど不可能であらう。若し彼が實際四十五歲に達して其遭遇する境遇に巧に順應し得たならば、それは彼自身の教育が中間の長年月に亙つて時勢の進步と同一步調を以て進んで來た結果と謂はねばならぬ。素より斯くあるが爲めには談話や社交に依り、周圍の事物事件に對する觀察及び思慮に依り、新聞、雜誌、圖書等の購讀に依ることが多い。唯、此等の方法は決して秩序的組織的のものではないが、繼續教育若しくは補習教育の重要なる方法である。然し唯それだけでは甚だしく不十分であるから、社會は須らく學校を中心とし、之に依つて年齡階級の如何を問はず、何人にも繼續教育卽ち補習教育を施すべき必然的任務を有つてゐる。

以上、社會中心としての學校の事業を略述したのであるが、此事業の精神は畢竟激變して止まざる社會的環境に順應するに必要な教育を施さんとするに外ならない。卽ち個人が現に從事する仕事の智的乃至社會的意義、換言すれば、各人の仕事が世界の生活と事業とに對する關係を明かに會得せしめるに在る。是れに依つて在來の因襲や權威は痛く其意義と價値とを失墜したことが解かり、且つ吾人の活動が總て社會全體に密接なる關係を有つてゐることが十分に理解され、從つて吾人相互の軋轢不安を減少し、益〻深き同情と廣き理解とを增す如き方法を以て吾人各自の思想信仰の融和に努めてゐる。

然らば社會中心としての學校は如何にして此目的を果たさんとするか。

第一　健全なる教育的影響の下に各人各個の長所美點を發揮し得る如く團體を組織すること。かのハル・ハウスの如きは單に智的教授の中心たることを期せず、專ら社交の中心、換言すれば各人の思想信仰の交換所たることを期し、眞の交際を妨げる族籍、階級、人種、習慣等を撤去するに努めてゐる。

第二　社交の中心たると同時に健全なる娯樂、休養、及び指導を各人に供給するの方法を採つてゐる。卽ち社交倶樂部、體操練習所、素人芝居、音樂會、幻燈講話等は現に實施されてゐる方法である。娯樂又は休養の價値は從來往〻沒却された傾があるが、是れは積極的道德力を有ち、人間最深最强の要求たることは爭はれない。かの娼家、茶屋、安舞踏館、賭博窟、場末の魔窟等の今日存在するのは、實に此娯樂又は休養といふ一大原動力の利用を誤り、之を等閑に附した觀面の應報と謂はねばならぬ。

第三　稍特別な連續的社會淘汰の機關を設ける必要がある。未だ社會中心としての學校といふ聲の起らぬ以前、合衆國の都市では既に夜學校を實施したものも尠くなかつた、而して其目的は幼時修學の機會を失つたものに對して初步の教育を授けるにあつた。是れは勿論當時と今日との區別なく適當の方法ではあるが、唯今日では更に一層進步的、乃至淘汰的の性質を帶びたものが必要である。例へばハル・ハウスの事業、卽ち音樂、圖畫、粘

土雛形製法、指物細工、金屬細工等の學級設備の如きは吾人の模範とするに足ると思ふ。其他科學實驗場を設けて隱れたる天才、發明家等の技倆を發揮すべき機會を供給するは社會の當然必然の任務なることを自覺しなければならぬ。

第四 學校を社會中心と認める考は現代思想界の根本基調たる民主的運動の發露したものと斷言し得られる。社會が各人に最も完全な發展の機會を供給するの義務を有することは、漸く一般の承認する所となるに至つた。凡そ社會が然かするのは最早慈善の事柄ではなく、寧ろ正義の事柄、否、正義以上の善事と看做さねばならぬ、換言すれば、發展成長して息まざる生活に取つて極めて肝要なる事柄と認めねばならぬ。物質的社會主義、換言すれば社會の物質的財產の分配を詮議する社會主義に就いては今後尙幾多の議論を要するものがあらう、然し何等議論の餘地なき一種の社會主義、換言すれば知識的乃至精神的社會主義の存在を認めねばならぬ。凡そ社會の智的乃至精神的財產を益、廣く益、完全に分配するは社會の本願とする所である。而も舊式の教育は今日の如き變化した事情の下に於ては、此事業を完全に果たすことが出來ないから、吾人は其缺陷を痛切に感じ、學校は須らく社會中心たるべしと要求し絕叫するに至つた。要するに社會中心としての學校とは、藝術科學及び其他の社交方法の如き無形物の社會主義を能動的に且、組織的に助長するの謂に外ならない。

ロチェスター社會中心所

前述の如く社會中心事業とは畢竟、地方社會全體の爲め正規の課業以外に校舍及び學校內の設備を種々に利用せんとする運動に外なちぬ。換言すれば、學校をして單に兒童の教育場と爲すのみで滿足せず、地方社會の他の要求に應ぜんとするのである、而して此運動の由來は上述の所說にて十分に明かにされたと思ふ。然らば學校が何故に他の如何なる機關に優さつて社會中心たるに適してゐるかといふに、第一、其設備は殆ど其儘、社會中心事業に適用される便宜があること、第二、學校の性質は自然、社會の精神的

中心となつてゐること等である。然るに此處に一派の論者があつて、社會中心事業は假りに必要なものとしても、それは本來教育的事業と稱することが出來ようか、換言すれば、學校作業の必然的擴張乃至普及と看做すことが出來ようか、將た又如何に善意に解しても畢竟偶然的乃至外來的性質のもの、一時の便宜上より出たものに過ぎぬと論ずるが、苟も上述の所說を會得したものは容易に其皮相の見解なることに氣附くであらう。

今日の教育觀は之を一言に盡せば、學校は力の許す限り其教授的職能を單に兒童に限らず廣く一般社會に普及すべしといふに在るから、社會中心運動は全く此教育觀と合致し且つ其事實的表現であると謂はねばならぬ。加之、之を學校經營上から觀ても、學校を社會中心所に充つることは最も經濟的方法であり、少額の經費を以て大なる效果を擧ける所以である。學校を以て地方社會の公共財產と考へ、之を廣く公共の爲めに利用するは經濟上の原則にも愜ひ又、學校愛護の精神を涵養し、學校をして精神的の社會中心たらしめるものに外ならぬ。

抑、社會中心事業の起原を尋ぬれば、それは嘗て紐育其他二三の大都會に於て成年者補習教育の爲めに夜學を開いたことに始まつてゐる。然し是れは今日の所謂社會中心事業と直接の聯絡はない。蓋し今日の社會中心事業は單に是れのみに滿足せず、娛樂乃至社交の中心をも兼ねんとしてゐることは既に述べた所で明瞭である。勿論今日理想的に實施されてゐる學校は未だ三四に過ぎないが、兎に角將來に於て成就しようとする目的又は期待が確に此點に存することは疑ひない、而して現に各地は競つて此有望な大事業に向つて著々歩を進めてゐる。

紐育市は一八九七年、少年及び少女の倶樂部の爲めに或學校の自由使用を許可した、是れ卽ち同市に於ける眞の意味の社會中心事業の嚆矢と謂つてよい。ボストンに於ける該事業は一八九九年に著手された、而して他の多くの都市は之に倣つて夫々該事業を開始したが、就中有名なものはミルウォーキー、コランバス、クリーヴランド、市俄古等である。此等の都會に於ては今尙概ね此事業を兒童乃至靑年にのみ限り、社會中心所は兩者の倶樂部

の爲めの娯樂及び社交の場所となつてゐる。斯く、多くの都市に於ける該事業は專ら兒童乃至青年にのみ限られてゐることは爭ふべからざる事實であるが、社會の要求と時勢の推移とは單に是れのみを以て滿足しない、更に進んで成年者の爲めに考慮し施設する所なくてはならぬ。現に紐育市の如きは、成年者に高尙なる市民生活を確立せんとしてゐるではないか。左に述べるロチェスター市も亦此例に洩れない。

ロチェスター市の該事業は男子公民倶樂部に始まり、それより延いて婦人倶樂部及び青年倶樂部の組織を見るに至つた。此順序は該事業に從事する專門家から觀れば最も望ましいものである、若し逆に最初青年倶樂部の組織を見たならば其儘、或は成年者、殊に男子倶樂部を生ずることなくして止んだかも知れぬといふことである。今其事業の一班を略述して見よう。

一九〇七年七月五日、教育局と學校教育普及委員會とが聯合して社會中心事業の大綱を討議した結果、此事業の方法は確定するに至つた。當時の決議を見るに社會中心運動の精神は民主的精神、知己を廣くせんとする友

誼的乃至社交的精神たるべきことを明かにしてゐる。社會中心運動は決して既存の教育機關の代理たらんとするものでもなければ、救貧事業でも夜學でもない、又教會其他道德的向上を計る爲めの機關でもなければ、所謂地方改良協會とか、一市一州一國の行政刷新を期する所謂公民改革協會でもない。唯、公立學校を以て社會生活の中心所たらしめ、校舍の設備を廣く一般の用途に供し、階級、職業、人種、年齢の如何を問はず市民が極めて民主的自由の精神を以て相互の親睦を厚うし、健全なる社交と娯樂とを享受せんとするものに外ならぬことを決議した。而して體操練習所、水浴場等を、初めとして卓上遊戯に至るまで種々の設備を整へて身體的活動又は休養を計り、更に圖書館若しくは讀書室の設備に依り、或は少くとも一週一回の講演會又は演藝會の開催に依つて智的活動の機會を與へ、又成年男女、青少年男女等は夫々自治的倶樂部を組織することを決議した。尙注意すべき點は學校教育普及委員會は調査の結果、以上の諸倶樂部に於ては政治乃至宗教に關して自由に討論し得べきことを一箇の規則として決議したことで

ある。

學校教育普及委員會は第一年度に於て數箇の公立學校に完全な設備を施して社會中心所たらしめんとの案を立てたが、經費調節の點から專ら一校に集中することとなつた、詳言すれば七月五日の會議の結果、一校の設備を完全にすること、而して試驗的に他の二校(第九號校舍及びウェスト・ハイ校舍)に何等特殊の準備なく毎週一夜倶樂部を開くことにした。

次に其學校の選定問題であるが、是れは成るべく都市中最も能く都會生活の種々相を窺知することの出來る地區を選ばねばならぬとのことから、ロチェスター市中、地理的にも社會的にも同市の中心地に設立された第十四號校舍を選ぶこととした。こはイースト・アヴェニューとディーウィス・ストリートとの中間に位し、附近にはロチェスター土着の住民多く又、外國若しくは他地方から移住した新市民も多く、人種、宗教、政治、社會各方面から觀て市中最も複雜な、且つ最も中心的な地區に位してゐる。

今、校舍内の配備を示せば、三階の會議室は各週五夜體操練習所に、一夜は

集會場に充て、一階の幼稚園教場は讀書室及び小競技室に使用し又、師範部の技藝及び物理教室は倶樂部會場と定められた。社會中心所に充てられない校舍の部分は鐵門で閉鎖された、體操練習所の設備としては會議室の一方にバスケット・ボール・コートを設け、他の一方には横木、平行木、木馬、梯、飛輪、攀繩、攀棒、輕業相撲用の疊等が備附けられ、其他啞鈴、棍棒、球竿、拳闘手套等の設備もあつた。體操練習所の附屬として三階に灌水浴を設備せんとしたが、事情不可能の爲め一階の化粧室に充てた幼稚園外套室に備附けられた。以上は體育に必要な全體の設備であるが、其他娯樂用として六十箇の椅子、十二箇の食卓、象棋、碁の如き十二種の卓上遊戯の設けもあつた。學術練習の爲めには講話用幻燈の設けあり、アルバニから借入れた五百卷の圖書と十二種の雜誌新聞とを備附けてゐる。又、社交的活動の爲めには此社會中心所内の種々なる倶樂部の茶話會用として一組の安皿を備附けてゐる。

次に社會中心所は日曜日以外の日、毎夜七時半より十時まで開き、中一夜(金曜日の夜)は男子、婦人、少年、少女の聯合會を開き、紐育市のそれに倣つて講

話會若しくは娯樂會を催し、火、木、土曜日の三夜は男子及び少年の倶樂部、月水曜日の二夜は婦人及び少女の倶樂部を開くこととしてゐる。

社會中心所の首腦者たる主事は、普通の學校に於ける校長に相當するもので、一切の活動を監督し、開會期は毎夜出勤する、主事に次いで重要なものは助手である。是れは婦人で、婦人、及び少女の倶樂部の主任である。第三に重要な地位を占めるものは少年倶樂部の主任で、毎週三夜出勤し、同倶樂部の次第書を作製し、其他種々管理上の任務に服する。圖書雜誌室、遊戯室の監理を掌る司書の制もある。司書は毎夜出勤し、毎週五夜執務するの義務がある。彼は圖書に關する十分の知識を有し、選擇上の忠告を與へ、又討論會の材料を供給するのみならず、象棋其他卓上遊戯の教授者たることを要する。體操場の主任は男女二部に分れ、男子及び少年の作業を監督するものは男子の主任である、彼は所定の三夜出勤し、バスケット・ボール其他體操場遊戯を監督し、器械作業と學科とを教授する。次に婦人及び少女の體操場主任は婦人である。體操は主として調練とピアノの囃子を容れた舞踏

とであるから、ピアノ彈奏者たるべき助手を必要とする。其他、昇降口及び講堂の番人、日中の番人、助手等も居る。

一九〇七年十一月一日、金曜日の夜、社會中心所は始めて開かれ、出席者總數三百十四名、頗る成功を博した。其報告の一節に『今や交誼及び娯樂の新機會と新方法とは吾等の隣保に到來した云々』の語が載つてゐる。當夜は社會中心所主事より、倶樂部組織の根本的必要及び方法に關する講話あり、終つて、體操場、水浴場、圖書雜誌室等を公開した。斯くて翌土曜日の夜、十四歳乃至十七歳の少年二十八名相會して少年倶樂部を組織し、倶樂部主任の指導に依つて會則を作製した。其序言に

社會は明瞭に思考し且つ其思想を適切に發表し得る男女を要求するが故に、又吾人は各自唯實地應用に依つてのみ發達させ得べき明瞭な思考力と適切な發表力とを有つて居るが故に、而して又、協力一致は最善の效果を擧げ得る方法なるが故に、茲に倶樂部を組織して討論、論文、演説、朗讀、研究等に依つて明瞭な思考力と適切な發表力とを養成せんことを期する

と述べてゐる。

次の火曜日の夜、十七歳乃至二十一歳の青年三十四名相會し、前同樣の倶樂部を組織し、同樣の會則を規定した。成年男子倶樂部は木曜日の夜組織される筈であつたが、一箇月後れて十二月五日、十二名の男子相會し、成年男子の公民倶樂部を組織した、而して其目的は左掲該倶樂部會則の序言に明かである、

社會の福祉は參政權行使の義務を有する人々に、現時の經濟的、產業的乃至政治的問題を十分に知らしめるに在るが故に、又、協力一致は最善の效果を擧げ得べき方法なるが故に、而して此協力一致に最も都合よき場處は公立學校なるが故に、吾等は茲に倶樂部を組織して公立學校内に會合を催し、公開講演、講讀及び討議に依つて公共問題に關する知識を涵養せんことを期する。

此公民倶樂部には互選の委員を設けて居るが、第一回の委員中一名は銀行家、一名は醫師であつて、他の數名は悉く勞働者であつた、而して是れ又此

倶樂部の特色である。公民倶樂部は頗る人氣を博し、第二例會には會員五十名に增加した。

月曜日の夜、四十名の婦人相會して倶樂部を組織し、會則を起草し、委員を選擧した。二十一歳未滿の少女も水曜日の夜、倶樂部を組織した。青年倶樂部の擧行事項は毎月討論二回、外來講演者の講演一回、其他雜事項と定められ、又、婦人倶樂部は毎月二回の講演、一回の討論又は他の特別事項及び一回の社交夜會を擧行することに決した。各倶樂部は會員より少額の會費を徵集し、夫々其基本金とし、社交夜會の宴會費、其他各倶樂部の入費に充てゐる。

右の外、尙其後一箇月間に十七歳乃至二十一歳の青年倶樂部二箇、十四歳乃至十七歳の少年倶樂部一箇、婦人倶樂部一箇の增加を見、斯くして第一年度の前半期には既に一箇の男子倶樂部、五箇の少年倶樂部、二箇の婦人倶樂部、一箇の少女倶樂部の組織を見るに至つた。

此外、尙オーケストラ倶樂部も組織された。之には別に一定の會則はな

いが、男女合計十名を以て組織し、毎週火曜日の夜、會合して助手、指導の下に實習し、金曜日の夜、聯合講演會又は聯合娯樂會に於て演奏することとしてゐる。是れ又社會中心所の人氣物の一となつてゐる。

成年男子の公民倶樂部組織は上述の如くであるが、青年男子も亦公民としての知識を得んが爲め、主任の指導の下に盛に討論會を催し、民主共和の二大黨派に分れ諸種の公共問題を議論し合ふことにしてゐる。否、婦人倶樂部も婦人の公民倶樂部なる名の下に『吾等二十世紀の婦人は社會、家庭及び自己に對して夫々義務を有するものである、而して此義務を完全に果たすには公共問題に通曉し、同朋に對する博愛心を養成する必要がある。其方法として名士の演說を聽き、討論を行ふことは、最も適切なるものである云々』との宣言書を公けにし盛に活動してゐる。而して此等の各倶樂部間の聯絡も亦巧に行はれ、少女倶樂部は少年倶樂部を、婦人倶樂部は男子倶樂部を招待する等至れり盡せりと言つてよい。就中最も著しき例は婦人倶樂部が伊太利移住民を招待し、伊太利移住民は其返禮として婦人倶樂部を

招待し、各〻人種國籍の別を度外視したる一事である。

今此等の事業の盛況を示さんが爲めに左の統計を擧げて置く。一九〇七年十一月一日より翌年四月十七日に至るまで社會中心所の聯合夜會に出席したものは總て二萬二千九百六十一名、毎會平均三百五十三名、講話又は娯樂の會は前後六十五回、入費合計二百九十一弗、一人平均一片餘である。

第六章　成年者の補習教育

學校教育の擴張、乃至學校設備の利用といふことが輓近亞米利加教育界の趨勢なることは前諸章の所說で明瞭になつたと思ふ。就中紐育市の如きは此趨勢の最も顯著な一例と言つてよい。蓋し社會一般は教育が啻に生計を得るの手段として必要なるのみならず、實に各人終生の大計として缺くべからざるものなることを信ずるに至つた必然の結果と見ることが出來よう。スポールディング僧正は『賢者乃至善人とは日々益、美と眞理と正義とに活きた關係を結びつゝ、あらゆる事柄を學び、老境に入るも猶息まざる人をいふ』と言つた。今や此言は事實上十分に社會一般から承認され理解されるに至つたのである。

如上の見地から紐育市は學校を以て單に兒童教育の場處に過ぎずとは看做さず、更に成年者の教育をも授ける機關であると看做すに至つた。蓋し此見解の根柢又は基礎たる原理は、卽ち教育には決して終りなしといふ

點にあつたのであらう。紐育市が輓近異常の繁榮と發展とを遂げた原因は一に市民の賢明なることに存してゐると言つても敢て溢言ではない。兒童教育の極めて重要なことを認めるのは勿論であるが、それと同時に止むなき事情の爲めに是れ又教育上の兒童となつたもの(卽ち成年者)の補習教育が彼等に取つて緊要なることを認めざるを得ない。

嘗て或圖書館員の語る所に據れば、一青年が其圖書館に行き『如何にして教育を受け、又如何にして受けた教育を保存すべきか』といふ表題の圖書を借覽したいと言つたとのことであるが、此青年は不知不識の間に實に一大眞理を道破したものではあるまいか。蓋し教育を受けることと、一旦受けた教育を保存することとは決して同一の事でない、學校の與へる教育は教育の端緒である、從つて成年者教育の設備は吾人をして受けた教育を保存せしめる上に必要なるものである。北米合衆國の就學者中、約千分の三十は中學校に在學し、千分の十五弱は高等程度の學校、大學及び各種職業學校に在學してゐる。而して國民の大多數は僅に一小部分の教育を受けたに

過ぎない、而も教育に依つて最も利益を得べきもの及び、最も教育を必要とするものは概して有益なる教育の感化を享受することの出來ない有樣である。而して特に教育の必要を感ずるものに二種の別がある、一は十四歳乃至二十歳の少青年期に屬するものであるが、此期にあつては彼等の思想が動搖すると同時に一方、又品性の形成される時期であり、尙其周圍には眞の修養の機會が整つてゐる時期である。二は實際生活の知識を有し、最も痛切に教育の價値を會得してゐる成年者の一大階級である。合衆國に於ける眞の電氣學者、物理學者、史學者等は實際常に此階級から輩出してゐる。或物理學講師の語る所に據れば、成年者聽講生の試みる質問は概して言へば高等學校學生などの發する質問よりも遙かに要領を得たものがあるといふことである。

一八八九年紐育市は始めて試驗的に六箇の學校に於て自由講演運動を開始したが、聽講生の總數約二萬に及んだとのことである。一九〇四年に於ては該講演の開かれた場處百四十、系統的講演を試みた講師四百五十人、

聽講生總數百十五萬五千人の多數に達した。更に一九〇五年度の聽講生は一層の多數に上つてゐる。此統計を見ても、成年者教育に關する民主的運動が漸次多數の市民に普及し、教育に對する一般社會の嗜慾が益〻熾烈の度を增し來たる事實を認めざるを得ない。素より單に統計的數字を以て事業の內容又は其進度を測知すべきものではないが、紐育市に於ける各種の階級乃至境遇に屬する大多數の男女が一堂に參集し、相共に講演を聽き、甚だしきは老人に至るまで此講筵に列するに至つては眞に是れ千古稀觀の祥瑞と謂はねばならぬ。斯くの如き熱心なる大多數の聽講生を驅つて雨の日、風の夜も厭はず、かの往〻居心地よからぬ講堂に參集せしめる魔力は抑〻何であらうか。是れ他なし、亞米利加國民の常識は教師の與へ得べき最善の知識を眞に味ひ得る程度に達し、且つ此等の講演に依り講師から最も有益な知識を得て、自由に之を國民一般に普及せしめんとする努力其もの

ではないか。

扨て此通稱自由講演、卽ち成年者教育運動は最早、實驗時代を通過したと

言つても敢て過言ではない、否紐育市の如きは、既に之を以て教育制度の中樞と認めてゐるではないか。勿論此運動が始めて起つた當時は講演に何等整然たる組織もなかつた、今日に於ては、絶えず系統的な講演を試みようと努めてゐるから、教育制度に缺くべからざる中樞と認められるのも強ち不當ではあるまい。自由講演の目的は今日既に明確になつてゐる、即ち講演課目を組織的に按排して研究を鼓吹すること、公立圖書館と協力一致すること、論議、即ち問題研究を奬勵すること、一言に約せば、最良の講師を得て紐育全市民に對する教化普及の事業に關與せしめることに外ならない。

一九〇四年の統計に據れば、講演課目合計百七十、一課目平均六回講義より成り、其講師は多く諸大學の教授講師等であつた。第十九世紀英文學なる一課目は三十回講義より成り、冬季を通じて同一場處で講演され、毎回聽講生平均三百人を超えてゐた。而して少くとも二十七回聽講し、二回の筆記試驗を無事に通過したものは證書を授與される規定であつたが、コランビア大學の證書を受けたもの實に三十一名あつた。是れ即ち大規模の大學

教育普及事業でなくて何であらうか。

又、負傷者應急救助法に關する三十課の講演も行はれたが、毎課五回講義より成り、同じく試驗の結果聽講生に證書を授與した。健康調査局と協同して知名の醫師を招聘し、肺結核豫防法に關する講演を三十四箇處で開催した。是れ即ち身體及び其養護に關する事柄を講演の題目とした初めである。

其他自然科學の大現象、例へば蒸氣電氣の使用法とか、星辰の運行等に關する講演等も試みられ、世界一周談も試みられ、或は合衆國歴史上の盛代を説明し、建國の偉人、國民生活の開發者を研究し、亞米利加國民の發展を講じたり、或は更に眼界を擴めんが爲めに世界歴史を講ずること等も行はれた。音樂繪畫其他諸種の技藝に關する講習、兒童の教育訓練に關する講演、市制發達に關する講演等何れも皆熱心な聽講生を以て充たされ頗る盛況を呈した。斯くの如きは畢竟所謂民族的知識を廣く亞米利加全市民に普及せしめ、以て人生の悦樂及び價値を增進せんが爲めの運動に外ならない。實

に亞米利加市民の進歩の程度は、全然此社會的環境の窒固なる一要素たる民族的知識の分量如何に依つて決定されるのである。

講師側よりも聽講生側よりも毎年該講演に對する賞讃の聲の發せられぬ例がない、卽ち講師は此事業の發達と影響とに關する經驗の價値を力說し、又聽講生は該講演から受けた感興と刺戟とを高調してゐる。試に二三の例を揭げて置かう。或專門學校卒業生で此講演を聽いた人の書信に左の如く述べてゐる。

世人は多く此講演を以て單に中學校又は專門學校の教育を受けることの出來ない人々の爲めにのみ必要であると考へるかも知れないが決してさうではない。聽講生にして高等の教育を受けてゐればゐるほど此講演の與へる利益は益〻大なるものがあらう、其利益は多々あつて今一々列擧するの遑はないが、就中余は負傷者應急救助法の講演から學び得た知識に依つて或高架鐵道の車掌の眼中から鐵滓を取出したことを初めとして一友の轉筋を整へたこと等多くの人々を救治したのは余が衷心の快事である。

又或聽講生の通信には左記の語がある。

我等の大多數は是れまで鋪石道と煉瓦壁との外には何物をも知らなかつた。自然が我等の門前に峙つてゐても、我等は少しもそれに氣づかなかつた。然し一度此講演を聽いてからは、我等は其與へた知識を學んで衷心欣喜に堪へざるものがある

更に或婦人聽講生の書信には次の如く記されてあつた。

私は一年前窒扶斯に罹り、昨秋又間歇熱に惱まされ未だ全快せず、頭腦も兎角明瞭を缺いてゐるが、是非とも負傷者應急救助法の試驗を通過したいと思つてゐる。假令失敗するものと極まつてゐても兎に角全力を以て何等か學んで見たいと祈つてゐる。夫が月曜日の講演に出席するのと、私には三人の小さい子供等があるので都合が好くない、木曜日の夜は夫が留守居して吳れるので私は氣樂に出席することが出來る。

以上の事實を觀ても成年者一般に修學の意志あることは容易に看取されるではないか。今日に於ては講演に二種の別を設け、第一種は多數一般の聽講生の爲めの講演と爲し、彼等に適當した學科を選んでゐる。第二種

は其性質一層專門的であつて、聽講生は夫々專門特殊の學科に興味を有するものに限られてゐる。斯やうな差別を立てた爲めに、既に高等の學術研究の素養あるものや、智的快樂の何たるかを會得しかけたものなどは大滿足を表したのである。蓋し此等の講演は教育上から觀て其目的の高遠なること、其價値の莫大なることは今更言ふまでもない事實であるが、之と同時に娯樂上から言つても該講演の與へる所決して尠少ではあるまい。換言すれば、それが一般人に與へる學問の快樂、又は知的快樂は到底否定すべからざる所である。吾人は國民が有する快樂の性質如何を觀て其國民の教化乃至文明の程度を卜知することが出來る。例へば鬪牛を見て樂む國民と講堂に於て學術講演を聽いて樂む國民と何れが進歩した國民であるかは問はずして明かである。故に若し藝術、文學、科學、音樂等を以て吾人の快樂と爲すに至らば、是れ既に今日社會公共の爲めに大なる貢獻を爲しつつある所以ではないか。單なる知識でなくて修養、單なる光でなくて溫味、一言以て掩へば優雅な人格、是れ又吾人の獲得せんとする目的ではないか。

又若し青年の眼を街頭から轉じて、今日學問の殿堂と化したる學校運動場に向はしめることが出來るならば、是れ卽ち吾人所要の目的を到達するの一助となるではないか。

或は此等の講演を以て索寞たる人生の唯一光明と看做す人もあらうし、或は其感化の下に著しく優雅な人格を馴致し得たものもあらう。多くの聽講生は講演後、講師を取圍んで種々なる質問を試み、歸宅後は日常生活の瑣事を談ぜず、沙翁、リンカーン、北極探檢、電氣の奇現象等を話題とするに至つた。爲めに幾多の人心は從來の昏睡狀態から覺醒した。而して如何なる講師も貧富、貴賤、老若男女、有學、無學を問はず、あらゆる階級の市民の爲め偏に彼等の貴い使命を傳へることに專心努力した。彼等は事實上から教育の尊重すべき所以を世の父母に示し、父母は又漸く學校に對する信賴の念を深めて來た。此點から觀て講師は實に所謂社會の溶媒と稱せざるを得ない。是れ卽ち學校は民主主義の保護者であつて、該講演には雇主と雇人との區別なく、又商人と職工との區別なく皆平等に列席するが爲めに外な

らない。更に此講演は研學進取の人々に慰藉と助力とを與へ、且つ其力を自覺せしめるの效がある。

今以上に述べた自由講演運動の目的を約言すれば、それは成るべく多數の人々に高等教育の美果を與へ、教育を人生の一目的と爲し、日常生活諸般の問題に對して最善なる學理的研究法を適用し、以て市民の健全なる輿論を喚起せんとするに在る。一九〇四年の國勢調査に據れば、選擧權所有者中、文字を讀み又は書き得ざるもの百五十萬人、卽ち現に總數の一割一分の多數を占めてゐる有樣であるが、一般投票卽ち普通選擧を以て政治を行使する北米合衆國の如き國家にあつては、成年者補習教育の如何に重大なるかは吾人の容易に察知し得る所である。

講演は概ね幻燈寫眞を以て說明されてゐる。蓋し肉眼に訴へて教授することは通俗平易に知識を傳へ、且つ永く其興味を保持せしめる上に頗る有效な方法である。單に口授するのみでは到底完全に此目的を達することが出來ないから、口授する事柄は之を幻燈寫眞の衝立面に活寫する必要

がある。更に理科の講演に於ては、教授の傍、多くの實驗を試みなければならぬ。從つて之に關する講演は極めて一般の興味を惹き易いものである、例へばクーパー學院大講堂に於て開催された『運動の一樣式としての熱』と題する前後八回に亙つた講演の如きは、毎回平均一千人の聽講生を集め、而して其講演の後には約一時間に亙る試問會が開かれ、又多數の聽講生はティンダルの『運動の一樣式としての熱』と題する書などを講讀したといふことである。

北米合衆國の歷史及び公民學の教授に就いては特に注意を拂つた。例へば合衆國偉人の誕生日にあつては、紐育市の各處に於て此等偉人の傳記を講演の題目と爲したり、或は一九〇三年乃至四年の間、新移入民同化事業の一助として、衞生及び合衆國公民心得に關する伊太利語の講演を開催したる如きは皆それに外ならぬ。

講師は現今第一流の人士を選び、大學教授、旅行家、記者、醫師、僧侶等を網羅してゐる、而して該事業の發揮する教育力の特色ともいふべき優雅の精神

は凡そ高尚なる教育事業に與はるものの競つて是れが發揮に努むべきものである。蓋し學校に於て聽講生の面前に立つべき教師の仕事の中で是れよりも名譽あり恐らく又是れよりも困難なる仕事はあるまい。又輿論を組織し、讀書の手引を爲し、進取的生活を鼓吹する民主的教師の仕事ほど神聖なるものはあるまい。實際、成年者教育の理想的教師は、或人の言つた如く、大學教授の學識と小說家の多才と俳優の科白と詩人の著想と說教家の熱誠とを兼備するの必要がある。

紐育市の成年者教育は、かの大學教育普及事業の長所を悉く具備し、其教育は市の勞働者階級にまでも普及するに至つた。それは學問と實務とは必ず相提携すべきもの、而して又、市及び州に對する大學の本務は、市民をして一層高尚な理想に向つて進ましめるに在るといふ信念を事實の上に立證すべき手段たるに至つた。一般讀書界に及ぼした該講演の影響は誠に驚歎に値するものがある。一圖書係は次の如く語つた。

冬季講演の期間に於て圖書閲覽者は三百二十一名の增加を示した、而も其

多數は講堂に於て圖書館といふことを始めて聞いた人々である。而して其結果、閲覽者は從來に比して一層の注意と先見とを以て、換言すれば何等か明確な目的を以て圖書を選擇し且つ自己の興味を喚起する如き題目の圖書を閲覽することとなつた。一言以て掩へば、該講演は從來に比して一層聰明なる讀書法を教示したことになる。故に閲覽者が苟も一册の書を讀むのは、其書が自己の研究問題に何等かの關係を有し、自己の感興を刺戟するからに外ならない。

以上の事實に徵するも該講演が正則の學校課程を履修しないものの爲めに莫大なる利益を與へてゐることは爭ふべからざる事實である。實に教壇文庫は自由講演の運動の中核を成してゐると謂つてよい。蓋し、普通の圖書館には同一圖書の備附が不十分であるから、講演課目毎に配布される教授要目所載の主要參考書は此教壇文庫から聽講者に貸出すことと定めてゐる。而して此等の圖書の貸出數に依つて講演課目に關する聰明なる研究の如何に盛大なるかを卜知し得られる。

成年者教育の運動は、啻に教育及び教師に關して新解釋を試みたのみならず、進んで校舍設備の形式を一新するに至つた。卽ち校舍は毎日僅か數時間を限つて開くべき性質のものでなく、毎日毎時之を開くべきものであり、又それは單に兒童教育の場所と限らるべきものではなく、進んで成年男女をも教育すべき場所と認められた結果、今日の學校には總て成年者の座席、理科講演用の裝置、竝びに適當なる說明用具を備付けた講堂の必要を見るに至つた。從つて斯かる設備が出來れば、成年者は空氣の流通惡しく居心地よからぬ低き教室に集まり、又は六十段乃至七十段の梯子を昇つて兒童專用の腰掛に座する必要はなくなつて來るであらう、故に紐育市に新設される校舍には總て此設計に基いた講堂を設置し、學校をば眞に其當然の任務たる社會中心所、或は所謂眞の『民主的隣家』たらしめんとするに至つた。現に紐育市內の或般賑な場處に於ける學校は日曜日にも依然として開かれてゐる事實を見れば、吾人は如上の理想が步一步實現されつゝあることを認めざるを得ない。博物館圖書館等が日曜日に於ても開かれてゐる今

日、學校も之に倣つて日曜日にも開かれ、大講堂に於て史傳、歷史、道德に關する修養的講演を公開すべからざる理由は少しもない筈である。而して此傾向は實に公共教育をして現代の特徵たる慈善運動のあらゆる美點を取入れしめようとするものに外ならぬ。蓋し教會及び慈善團體が吾人の此教育事業に對して如何に深甚の注意を拂つてゐるかは、教育局主催の公開講演の爲め常に無代にて教會其他の諸會堂を貸與するの事實に徵しても明かである。

更に公開講演の制度は大都市の和衷協同を促進するの效がある。和衷協同の精神は決して架橋工事などに依つて養成さるべきものではない。蓋し大都市に在つては隣保相親しむの精神は往々普及せざるやの憾みあるが唯、思想の共通に依つてのみ市民を一致協同せしめることが出來る。一九〇四年紐育市制發布二百五十年祝典を擧行した際、從來ありふれた觀兵式又は大規模の宴會などを廢して、紐育市の發展を說明した講演及び野外展覽會を擧行して市民の祝意を表したのである。卽ち紐育市の歷史に關

する約百箇の講演を市の各所に開き、其中三十箇は之を公園地に於て開いた。斯くして紐育市は成年者教育事業の先鞭を着けたと同時に、又平和的市民祝典法の開拓者ともなつたのである。

四十にして尚老いずといふ思想は今日特に成年者教育大運動が合衆國民の生活に於て力説高調すべきものではないか。オスラー博士が人間智力の衰頽期に關する問題を一般に喚起したのは大に吾人の多とする所である。今日合衆國に於て特に必要なる事柄は老人に對して一層の尊敬を拂ふことである。而して人間の身體發育の極度は恐らくは壯年期に存するであらうが、智力の發育は終生底止せず、エリオット總長の所謂人生の晩年は最善時期たるべしといふことを會得するが肝要である。科學者の研究に據れば、人間の頭腦は五十歳乃至六十歳に於て最も發育し、六十歳に達するも尚知識の修得を開始し得るといふことである。是れは單に學理上から論證し得られるのみならず、事實上吾人は古來幾多の偉人が老年に及んで尚非常の大活動を營んだ事例を知つてゐるのである。

それは兎に角、此運動の價値を一言に盡せば、それは畢竟教養なきものを教養し、校舍の用途及び其可能力に新しき意義を與へ、且つ又一般國民の見聞を富ましめ、兼ねて彼等に諸般の思想を注入する點に存すると言つてよい。今日の如く勞働時間比較的少く修養の機會比較的多き狀態に在つては、成年者教育は實に勞働者に對して其知識慾滿足の刺戟劑となり、又彼等の生活する世界を一層廣大ならしめる效があらう。文學に現はれる最善の人物は彼等を感化するであらうし又、科學文藝に親しむ結果、彼等は益日常の勞働の神聖なることを覺り、新なる歡喜悅樂は彼等の日常生活中に湧出るであらう。從つて彼等は眞の幸福は富貴財寶から生れ出るものではなくて、藝術の眞味を味ひ又自然を愛する所に始めて發生するものなることに氣づくであらう。

合衆國に於ては今日到る處公立學校を以て聰明なる民主的精神を涵養する最も有效の機關と認めてゐる。素より公立學校に對する兎角の攻擊非難は今日尚依然として存するが、合衆國民一般の氣風は公立學校の感化

の下に漸次向上しつゝあることは爭ふべからざる事實である。假令公立學校が偶、理想論者の希望する如き萬能藥たることは出來なくとも、それは公立學校其もののの本性の然らしめる所ではなくして、主として其資本金の不十分なる自然の結果ではなからうか。公立學校は須らく市中最も美麗な建築物であり、教師は最も勝れた識見と最も高き教養とを具備し、且つ社會最高の地位を占めるものであらねばならぬ。斯やうな條件が今日の公立學校に悉く備はつて居り、又國民一般が教育を以て人間最高の事業と看做すに至らば、茲に始めて公立學校は理想家の夢想する萬能藥の役目を果たすことが出來るであらう。然るに今日建築壯麗であり、完全なる衛生上乃至體育上の設備を有し、成年者教育用の大講堂をも具備してゐる公立學校でも尙未だ此理想を距ること遙かに遠いものがある。ページ曰く『先づ公立學校をば各人の家庭たらしめよ然る後、始めて教育の本義を語るべし。公立學校は各人を結合し、各人は公立學校を以て各人平等の教育所と看做し、平等の興味を以てそれに接しなければならぬ』と。

抑、教育事業に從事するものは悉く帝國主義者である。然し吾人の帝國は精神の帝國である。蓋し吾人は自己を豐富ならしめるものは實に精神であると信ずるからである。吾人は又擴張論者である。然し吾人の所謂擴張なるものは各人をして眞實の生活を送らしむべき機會の擴張を指すに外ならない。吾人は又門戸開放論者である。然し吾人の門戸開放は實に學校の門戸開放を主張するのである。換言すれば、吾人は學校をば單に兒童の爲めの育兒房と看做すことに甘んぜず、更に進んで成年男女の爲めの智的慰安所と爲さねばならぬ。吾人は最後に民主主義者である。卽ち所謂教育は未だ嘗て如何なる國民をも救つた例はないが、それにも拘はらず、如何なる國民も教育なくしては到底救はるべきものでないといふことを確信して疑はない。

以上は現在紐育市に於て實施されてゐる成年者教育の制度であるが、前にも述べた如く、此點に於て紐育市の教育局は實に其先鞭を着けたものと謂はざるを得ない。他の諸市は皆、大體此紐育市の夜學制度に準據し、夫々

多少の變更を加へて成年者教育を實施してゐる、而して其監督は或は學校當局者の手に在る所もあり、或は外部の熱心なる公共團體の手に在る所もある。斯く大都市に於て一般的興味を喚起し且つ非常の成功を博した事業は更に進んで之を小都會乃至村落にも普及し、彼等の間に同樣の興味を喚起せしめ又同樣の價値を認知せしめる必要がある。以上の如き方案に倣ふと否とに拘はらず、凡そ成年者教育の機會を擴張せんが爲めには何等かの手段方法を講じなければならぬ。然らずんば嘗て兒童時代に於て學校教育を受けた成年者が、今日の進歩した教育の程度と同一歩調に出ることは到底不可能に歸して仕舞うであらう。

今一例を示さんに、今日の衛生學は實際總ての社會と活きた關係を有する夥多の事實を吾人の面前に暴露した。卽ち吾人の衛生、患者の看護、飲用水、純良食料等に關する幾多の事實は單に之を兒童にのみ教へるだけで滿足すべきであらうか。若しもさうであるならば、是れが爲めに一般の社會は殆ど何等の利益をも受けることは出來まい。蓋し兒童は成年者社會の

同情あり、理解ある協同乃至後援を俟たずんば、殆ど此等の事實を實地に應用することが出來ないものと思はれる。故に最も有效な方法としては直接成年者を教授するに如くものはない。斯くしてこそ始めて社會の爲め直接の效果を擧げることが出來よう。教育的活動をして最も迅速に社會の進歩に貢獻せしめる最良の方法は、實に科學の進歩と社會改良法とを成年者に教授する此種の制度である。成年者を教育すべしとの思想が兒童のみ獨り教育を受ける資格ありといふ在來の教育說を根本的に排斥する事實は特に吾人の注意を要する所である。教育は成年者大多數の爲めに終生繼續し得るもの否今日に於ては然か爲さざるを得ない。

唯茲に問題となるものは、小都會乃至村落に於ては如何にして趣味と實益とを備へた講演を開くことが出來るかといふ點である。然し是れには案外さしたる大困難を伴ふことがあるまいと思ふ。現に如何なる小町村でも利用し得べき手段方法は頓に增大してゐるではないか。道は近きに在り、須らく隨處に之を求めて其利法用を案出すべきではないか。

第七章　運動場及學校園

運動場の社會的意義

現代教育活動の最も重要な發展の一は、確に運動場の教育的價値が一般に認められたことである。換言すれば、學校と市設運動場との聯絡一致が確立されたことである。從來は遊戯乃至運動の重大な意義は唯漠然と認められてゐたに過ぎなかつた。其個人的並に社會的價値が適當に理解され、少くとも一般的實際的方法を以て施設されたのは最近僅に二三十年來のことに屬する。

遊戯乃至運動が兒童の正常なる發達並に成年者の心身健康に必要なことは言ふまでもない事實であるが、それと同時に現時の遊戯問題は最早個人的必要以上に更に社會的に意義あり價値あるものとなつて來た。如何なる都市にも適當なる管理の下に合理的の遊戯及び遊戯以外別に體育の爲めの公共運動場又は體操場を設備するの必要があると同時に、若し出來

得べくんば何れの家庭にも何等かの形式に於ける私設運動場及び體操場を設けるの必要があらうと思ふ。

適當に管理された運動場又は體操場は、屋内屋外の別なく、一般の教育的中心所であり、又道德的、倫理的訓練の中心所である。現在の市民並に第二の市民の爲めに適當なる體操場を設置することなき都市は餘儀なく警察署、監獄、病院等を增設しなければならぬ破目に陷るであらう。之と反對に、例へば市俄古市の如きは市監督の運動場を設置して以來年少犯罪者を著しく減少したといふことである。是れ畢竟、兒童を街路から離隔し、放課後又は休暇期に於て有害な娯樂の巢窟から遠ざけしめた自然の結果に外ならない。運動場設置は又かの不良少年の跋扈を杜絶し、且、社會上重要なる諸〻の德行を進めて行く機緣ともなつてゐる。是れは世界第一の鐵工場ピッツバーグ市の運動場報告に徵しても明かである。

故に運動場は本來單に兒童の野球場乃至娯樂の中心所などいふ意味以上のもので、老若男女を問はず、人種國籍の如何に關せず、總ての人々に身體

上の幸福を與へるものたることを其必須要件とする。斯くしてこそ始めてそは何人にも平等の利益と快樂とを與へる所謂社會中心所たることが出來るであらう。故に運動場の設置と其適當な監督とは社會一般が考慮すべき事柄であり、又社會公共の費用を以て之を經營するが至當である。

從來、運動場は學校の附屬物と認められてゐたが、今やそれは學校と離れて、而も學校と相竝び、相提携すべきもの、而して學校と同樣、都市が直接經營すべき時代となつた。學校が一般的教育の場處であるに對して、運動場は特に遊戯體育の場處であらねばならぬ。

新英蘭土州の或大都市の布達には、街上にて投球、投石、其他一切の投物、橇乘、馬車乘等の遊戯を禁ず』とある。又加奈陀トロント市の女王公園は二三十年前までは兒童の自由遊戯を許可したる娯樂地であつたが、今日では麗麗しく『投球嚴禁』の禁札が立てられてゐる。斯く今日では殆ど到る處の空地に右同樣の禁札を見るに至つたのであるから、不幸にして庭地を有たぬ家庭に生まれた兒童は、何處に如何にして遊戯することが出來るであらう

か。而も遊戯は兒童の本能である、此本能にして滿たされざらんか、それは種々なる惡事犯罪となつて現はれるのは必然の勢である。當局者が此點に顧みないで妄りに兒童の犯罪惡事をのみ咎めるのは寧ろ咎めるものの非ではないか。

幸にも時勢の進運は當局者を覺醒し、運動場設置の急務を自覺せしめた。十年前までは公立運動場は單に富豪慈善家の寄附に成るべきものと考へられてゐたが、今や、それは公園と同じく公費を以て經營さるべきものと認められるに至つた。豫防は治療よりも低廉である、今日既に感化院の犯罪者管理法は漸次監獄流を脱し、又入獄の厄を免れしめん爲めに少年裁判所及び初犯者假放還制等の確立を見るに至つた。否、監獄のみならず養育院病院等に在つても新入院者の防遏、換言すれば其豫防策の必要なることは敢て監獄の場合に讓らない。

然らば其豫防策は如何、第一に人間の健全な出生と健全な發育とを計るに在る。出産に關しては科學の力も行政の力も未だ之を監督制御するま

でには達してゐない。故に都會出生の人間を健全に養育して犯罪者、貧窮者、病患者の率を減少せしめるの方策は實に痛切な實際問題である。健全なる發育の第一要件は新鮮なる空氣と運動とに外ならぬ、而して運動場は直接此要件を滿たすものである。遊戯、運動の兒童に必要なるは恰も食物の必要なると同樣である、而も到る處、地代極めて不廉なる都會地では、是非とも市費を以て兒童の爲め運動場を設置するの必要がある。若し斯かる方法を採らずんば、兒童は街路を運動場と爲し、其結果通行を妨害し、怪我事件を增す等種々の危害を一般に及ぼすに至るであらう。

運動場をして本來の目的を果たし、且つ最も有效ならしめるには遊戯管理者を必要とする。勿論、運動場は空地を要し、適當の設備を要する、而も兒童の來會する多寡と結果の優劣とは設備の完否如何に據るよりも寧ろ兒童を樂ましめ且つ、彼等を管理する能力の有無如何に據るものである。空地や完備せる運動場に、若し遊戯管理者を缺くならば、其等は遂に亂雜喧囂の巷と化し、忽ち近隣の怨府となつて仕舞うであらう。其結果、遊戯競技等

には全く組織がなくなり、又、兒童の競爭心乃至協同心を涵養することは不可能に歸するであらう。

遊戯管理者の任務は、所謂指導することではない、唯、各自夫々異つた活動と興味とを有する多數の兒童を編制して活潑なる組に分けること、即ち數多の組に屬する兒童を同時に興味あらしめ且つ熱中せしめることにある。斯く此管理者は兒童遊戯の統率者たり、將た新遊戯の教師たる性質を多分に有つてゐるが、其主要任務は一箇の管理者若しくは編制者たるに在つて、決して所謂指導者たるものではない。編制され、且つ管理された遊戯は兒童の獨創力を奪ふといふ說は經驗上將た心理學上既に打破されて仕舞つた。若し兒童をして唯、一二種の競技を爲すまゝに放任する時は彼等は殆ど全く新競技を案出する例がない。之に反して運動場で夥多の競技を學んだ兒童は絕えず舊競技を變更し、又は全然新なる競技を工夫し出すものである。

今、運動場設置運動の發達及び普及を知らんが爲めに左に二三種の統計

を擧げて見よう。一九〇八年五月に至る六箇月間、運動場及びそれに伴つた諸々の設備の經費は六百萬弗、一九〇九年に至るまでの十一箇年間の經費通計約五千五百萬弗に達してゐる、而して其内、市俄古休養中心所一千五百萬弗、桑港休養中心所七十五萬弗、紐育市競技運動場一千五百萬弗等を其主要なるものとする。

紐育市は種々なる夏季運動場及び休養中心所事業に對して千人以上の教師を雇つてゐる。一九〇五年に於て二十四箇の都市に合計八十七箇の私設運動場あつたものが、一九〇七年には百六十九箇に增加した、卽ち二箇年間に九割四分の增加を示したのである。又右の都市に於ける公園及び市設運動場の數、一九〇五年に於て七十三箇であつたものが、一九〇七年に、は百〇八箇に增加した、卽ち二箇年間の增加率は四割八分である。其他諸種の運動場、一九〇五年に百六十箇あつたものが、一九〇七年、二百四十七箇に增加し、其增加率五割四分に上つてゐる。

從來三十餘の都市に於ける運動場は私人の慈善事業に依つて經營され

て來たが、一九〇六年乃至一九〇九年の間に於て遂に夫々其市の直接管理の下に經營されることとなつた。爾來益、此傾向を激成し、今日に於ては既に二百有餘の都市は悉く其運動場を管理し、其内三分の二は純粹に市費に依つて經營されてゐる。以上の事實に徵しても、運動場の社會的意義は既に確認されたものと言つて少しも差支ない。最初運動場に對して懷かれた幾多の誤解又は反感は全然一掃され、今日、却つてそれは一大社會的要求たるまでに進んだのである。

運動場設置奬勵に關する法律案は既に數州の立法府を通過した。例へばニュー・ジャージ州及びオハイオ州では是れが『認可條令』を設け、ミネソタ州では運動場敷地を求める爲めの公債發行を認可し、其他進取的の諸州では現に此問題を考究してゐる。就中其最も顯著なる事實は一九〇八年マッサチューセッツ州に於ける四十箇の市町が州の强制運動場條令に準據して公共休養所を設置したことである。此法律に據れば、人口一萬の市町にして該條令を採用するものは、兒童の休養及び體育に適したる地面と設備とを有

し、便宜の地に設置された公共運動場少くとも一箇を經營』しなければならぬ。一九〇八年十二月及び一九〇九年三月、四月の地方選擧に際し、同州に於て四十二箇の市町は該條令の採否に就いて投票を行つたが、其中四十箇は之を可決し、二箇は否決した。而して其贊成投票數は十五萬四千四百九十五票、反對投票數は三萬三千八百八十六票であつた。

學校園の社會的意義

學校園とは一口に兒童に花卉を愛好することを教へる場處と言ふことが出來る、而して教師は植物の生活過程及び其敵と味方とを教へると同時に、兒童に野外作業を愛好するの精神を養ひ、且つ其品性及び能率を助長增進する如き自然力乃至自然律に關する知識を授けることが肝腎である。

區域の大小廣狹の如きは決して學校園の必須條件ではない、唯兒童をして活躍する興味を感ぜしめるが如き花園でさへあればそれで十分である。故に室内なる植木鉢の中に成長しつゝある小さき實生に對しても亦、野外

の大花園に於ける數多の作場に對しても、同樣に此種の興味を覺えることが出來るであらう。花園は或は共同的、或は個人的、或は共同的個人的の兩者を兼ねることがある、而して何れの場合に於ても、培養される植物は殆ど同一であり、又其方法も同樣である。而して學校園存立の根本目的は教育的、實業的、社會的(道德的)の三重から成つてゐる。

紐育デヴィット・クリントン公園内に設置されてゐる學校農園の設立者は其報告書に次の如く述べてゐる。

> 余は單に二三の花卉を栽培せんが爲めに學校園を設置したのではない。是れは兒童が如何に作業を喜び、且つ熱望するかを示し、又作業中、彼等に必要なる或公民道德を教へんが爲めに設置されたのである。公民道德とは公共物の愛護心、經濟、正直、應用、專心不亂、自治、公民的自負、公正、勞働の神聖、自然の愛好心等に外ならぬ。

蓋し此等の諸德は各自が夫々の地區を有する學校園に於て最も善く教へることが出來よう、何故なれば學校園に於ては兒童の興味を大ならしめ

ると同時に益其報酬を大ならしめることが出來るし又兒童をして原因結果の關係を頻繁に且つ明白に意識せしめることが出來るからである。

學校園の眞價を認めたものは、最初主として師範學校に限られてゐた。教育局の如きは其教育的乃至社會的價値が事實上立證されない限り、到底それを必要なものと看做し難いと考へてゐた、故に學校園に對しては唯少額の補助を與へたに過ぎなかつた。例へば自然科の教師を任命して之を監督させたに過ぎなく、維持費若しくは夏季監督の報酬等は殆ど支給することがなかつた。尤も維持費缺乏の原因は尙他に學務委員對豫算局の意見の齟齬や、保守的の老校長、區の政治家等の學校園反對などの事情にも存することは爭はれない。

概して言へば學校園の必要を認めたものは教育界の先覺又は最も進步的の教師のみであつて未だ其思想は一般に普及してゐない。學校園發達の障害は啻に上述した實際的方面に存するのみならず、學理的方面にも存する、換言すれば此問題に關する議論は區々一定してゐない。然し斯かる

瑣事は宜しく自然の解決に一任すべきものである。學校園は猶銀行に譬へられる。蓋し銀行に於ては金貨、銀貨、小切手、爲替手形等の如何なる形でも金錢を要求し得るから、從つて種々なる要求に應ずべき種々なる價を振出すことが出來る。之と同じく學校園に於ては、教育的、經濟的、審美的、功利的、社會的等あらゆる價値を隨時任意に引出すことが出來るのである。故に兒童の天性を啓發助長すべき學校園の力は、單に以上の中の或一方面からのみ觀察すべきものではなく、又、學校園を以て單に社會の一階級若しくは二三階級の兒童の爲めのものと看做してはならぬ。それは貧民の境遇を安樂ならしめ、彼等の子女に利益と快樂とを與へ得ると同時に、富者の兒童にも亦著しく快樂を與へ得べきものたることを要する。

學校園の教育的價値が地方學務局に認められるまでは、止むを得ず慈善團體若しくは私人の篤志に依つて之を經營しなければならぬ。斯くては實際上幾多の不自由を感ずるに相違あるまい。然るに最近、農業園藝乃至社會改良事業に從事するものは、擧つて此學校園設立の爲めに奔走するに

至つた。殊にヨンカーズ、ピッツバーグ、デュビューク及びクリーヴランドの一部に在つては、學校園は既に所謂社會中心所たるまでに發達し、而して教育家の間には是れが設置を贊成するもの激增するの有樣を呈してゐる。彼等は常に斯く言ふのである。

學校園にて授けられる教育は正當のものである、即ちそれは實物に對する興味を喚起し、判斷力を助長し、兒童をして環境に親炙せしめるの效がある、就中、兒童に品性陶冶の第一要件たる責任を負はしめる機會を與へる。學校園作業の活動は兒童に取つて自然的のもの、而して教室内の窮屈を十分に休養せしめる效力がある。兒童は此活動を理解し得るから、從つて其智力は該活動中に發達するに相違ない。實に學校園は教授訓練上有效なるのみならず、價値あり利益ある職業に關する趣味を涵養し、且つ極めて有益なる知識を與へるものである。

學校園設置の結果、都市の兒童は街衢、雜沓の巷、風紀惡しき周圍等を避け、又農村の兒童は無益の消閑を避け、怠惰の兒童は樂しき作業を得、衰弱した

る身體は健康を恢復し、意志と感情とは訓練されるに至つた。學校園の美果は當に此等の諸點に於て收めらるべきものであらう。

學校園の價値は啻に此等に止まらず、更にそは教室の作業に生氣を與へるの效がある。如何に痴鈍緩慢の兒童でも、尺寸の地を耕作してそれから生ずる收穫を豫想し、所得を計算する時は、自ら活潑怜悧たらざるを得なくなるであらう。加之、學校園は歴史科、地理科、割烹科、裁縫科等と驚くばかりに密接なる關係を有し、地文科とは漸次關係を結ばんとしてゐる。又、學校園と自然科とは雙子の間柄であり、手工教練とは好伴侶の關係を保つてゐる。

斯く學校園は種々の點から觀察され、兒童の現在及び將來の利益を考慮して種々の目的の下に設置することが出來るであらう。然し其特殊の目的が那邊に存するも、凡そ成功せる學校園は必ず兒童及び其兩親の二者を感化する如きものであらねばならぬ。若し此理想が實現されゝば其影響は單に學校内に止まつて居らず、遂に隣保にまで波及するに至るであらう。

花卉に對する愛好の念は、人類の階級を撤去し、職業及び境遇上甚だしき懸隔ある人々の間に相互協同の興味を基礎とする眞の友誼交情の關係を結ばしめずして止むものではない。

是れが一例としてオハイオ州クリーヴランドなるウォターソン學校の學校園に關する美談を擧げよう。學校園の水蠟樹(イボタ)籬の第三回目の剪切の際、兒童が其切枝を教室に持つて來たのを見て、教師は他の學校でも斯やうな水蠟樹籬を欲するであらうかと尋ねた。兒童は皆然りと答へた。斯くて兒童は熱心に其切枝を束ね、數十束を他の或學校に送つた。送られた學校の兒童は冬の間それを園つて置き、翌年の春にそれを植ゑ附け、遂に見事な籬を造るに至つた。其他、送つた學校の兒童は、教師に引率されて其學校を訪問し、皆非常に喜び合つたといふことである。此一事に徴しても學校園が特殊の目的を有つてゐることが明かに察せられる。卽ち、それは花卉草木の交換を爲し、養苗殖林の事業を營むものである、一言以て掩へば所謂交換學校園を完成することに外ならぬ。クリーヴランドに於ては斯かる交

換學校園は毎年二萬件の交換を行ふといふ。是れは單に愉快の事業たるのみならず、僅少の金を以て莫大なる利益を得る方法としても大に價値ある事業と謂はねばならぬ。

又、僻遠の地方に在つては最初、地形學的花園、若しくは地圖的花園を設置することが最も妙策であらう。是れは唯學校附近の道路、丘岡、沼澤、平野等を區劃して、それを其儘學校園としたものに外ならぬ。斯くして自然に野生の花卉草木に對する兒童の趣味を喚起し、之に依つて學校園の裝飾に興味を感ぜしめるの效がある。故に校舍の位置宜しからず、又は建築の美麗ならざる地方や、又は父母たる農夫に未だ確たる實業教育の理解や興味のない地方に於ては、切に地形學的花園の必要が感ぜられるであらう。特に此方法に據れば、甚だしく保守的の社會も大なる興味を以て學校の改良を計ると同時に、他日是れは成年者及び兒童の兩者に福利を與へる、かの野菜園の實驗を促がすこととなるのである。

尙又、學校園は學校と家庭との聯絡を保つに有效なることは疑を容れな

い。凡そ學校が兒童に花卉野菜等の種子を與へ、各自家庭に歸つて少許の地域、卽ち家庭花園に之を栽培せしめ、教師が時々訪問して之を監督指導するは頗る有效の方法である。是れは都鄙何れにも容易に實行し得られることであり又現に實際に行はれてゐる。今其一例として西ヴァージニア州アゼンスなるコンコード師範學校校長ベミスの語を引用して置かう。

斯くの如き方法を以て作業を實施してゐる理由は、畢竟我校に十分なる地面がないからである。然し余は兎に角、此方法を適切なるものと信じてゐる。蓋しそれは兩親をして此作業に一層興味を懷かしめると共に兒童の作物は兒童各自の物となさしめる所から無限の喜びを彼等に與へるからである。然し兒童は學校から分與された種子を再び學校に返却しなければならない。故に兒童は種子から種子まで植物を培養するの義務を負つてゐる。

學校と商店との聯絡は手工教練に依つて保たれてゐるに拘はらず農場との關係は今尙疎隔してゐるではないか。而も此二者を聯絡せしめるも

のは實に學校園を措いて他に求められない。農村は姑らく言はず、唯、都市の如く地代益騰貴する土地に在つては、如何にして完全なる學校園を設置すべきか、是れ目下の一大緊急問題と謂はざるを得ない。

第八章　職業教育の社會的意義

現今種々なる教育活動の發展中、社會的見地から觀て最も重要なるものは實に實業教育乃至職業教育である。是れは社會的に重要な問題であると同時に各個人に取つても亦重要なることは多言を要しない、而して此場合、各個人をば狹義に解して、單に經濟的生産者として觀ても、又は廣義に解して智的乃至道德的存在者として觀ても重要な問題たることを失はぬ。故に職業教育の問題は個人的、社會的の二方面から觀て共に極めて緊要切實なる事柄と謂はねばならぬ。

今日漸く識者の間に認められかけた事柄であり、且つ最も注意すべき事柄は、學校が兒童に對し一層適切な刺戟を與へ、兒童をして自發的に學校の作業に從事せしめる必要があるといふ點である。抑、學校が兒童に課する仕事は大體外部から强迫的に然かするものであるから、それは兒童内心の强烈なる欲望を刺戟して何事かを爲さんとか、何ものたらんとかといふ心

を惹起する力は殆どない。故にエリオット總長が次の如く言つたのは此點から觀て、誠に至當と謂はざるを得ない。曰く、『成るべく早い時分に生涯の職業といふことを考へさせるやうにするのが、兒童各自の利益である。蓋し生涯の職業といふ考は最も强固であり、且つ最も持續的なものであるからである』と。尚又、教育者間には、兒童の職業教育が職業といふ目的に支配されるからとて敢て今日よりも非教養的であり、換言すれば今日よりも狹き教育である必要がないといふ思想が廣く一般に普及せんとしてゐる。

勿論、此生涯の職業といふ考は小學校時代の兒童の心に判然と現はれるものではないが、教育の力を以てそれを養成助長せしめなければならぬ、而して兒童が小學校卒業の年齢に達する頃には、此考を可成り判然と定めさせるやうに仕向けねばならぬ。兒童の初等中學卒業期には、學校は實業教育乃至職業教育に對して始めて確固たる注意を向けねばならぬ。而して從來の因襲的教育の弱點、若しくは缺陷が最も明かに露はれるのは實に此時期に於てするのである。換言すれば、小學教育の從來の誤つた理想が始

めて其惡果を結ぶに至るのは卽ち此際に於てゞある。從來北米合衆國では兒童の小學卒業期(十四歲)より十八歲に至るまでの四年間は全く敎育上放任の姿を呈し、從つて兒童將來の爲めに誠に恐るべき損失を招き、延いて社會一般の不經濟を來たすべきことを憂慮し、近來、敎育の社會的任務の擴張せるを認める識者等は、此四年間の損失豫防策として職業學校及び實業補習學校を設立せんとの考案を立てゝゐる。州が兒童の職業に就くや否や彼等を自由に放任して顧みず、彼等一生の危機ともいふべき時期に於て彼等に對して何等かの敎育を施すことを以て其義務と看做さないのは誠に不思議に堪へない。兒童は如何なる時期に於ても、道德的指導と確固たる理想とを必要とするものである以上、此時期に於てもそれが肝要缺くべからざることは勿論である。實に此時期は彼等が最も自己の缺點を自覺する時期であり、從つて彼等の誘掖指導は一日も忽にすべからざる時期に屬する。卽ち兒童が是れまで學んだ知識をば實地に應用することを敎へる必要のある時代である。而して彼等一生の態度は實に此時代に於て決

定される。故に或は其日稼ぎとなり、橫着者となり、無賴漢となるのも、其源は旣に此際に發し、反對に兒童をして職業に對する愉快若しくは歡喜の念を起させ、彼等が從事する職業に興味を感ぜしめ、他日彼等をして有爲有能の職工たり、且つ大望ある勞働者たらしめるのも、實に此際に決定されて仕舞うのである。

小學校の敎育は兒童をして他日自活し得べき有爲の市民たらしめるに不足なきもの、社會はそれ以上又は以外に兒童の敎育を營む必要がないといふ思想は最早今日では事實上から打破されて仕舞つた。各般の產業、諸種の職業は今日頗る分化を遂げ、且つ夫々專門の技術と準備とを要するに至つた結果、最早單に小學校の初等敎育のみを以てしては到底有利の職業に就くことが出來なくなつて來た。從つて小學校を卒業し、義務敎育を終つたのみで、直ぐ職業に就くものが、何等特殊の技術を有せざる勞働者の階級に仲間入するに至るのは到底免るべからざる勢であり、又彼等は止むなく終生此職業に止まらざるを得ない破目に陷るであらう。今日の社會に

は純然たる少年の職業なるものが多く現はれた、就中、用達小僧や昇降機小僧などは其好適例である。此等の職業は皆夫々少年の人氣に投ずる、而して支拂はれる賃銀は些々たるものではあるが、兒童の眼には所謂大金儲とも見えるであらう。然し、此職業は斷じて他の一層優つた職業の準備となるものではない。兒童が他日青年に達し、現在よりも有利の職業に從事するの必要を感じた場合、彼は其職業に投ずるだけの力量に乏しいことを自覺するに至るであらう。然らば則ち彼は最初從事した職業が何等かそれよりも優つた職業の豫備たるものでなかつたことに氣づくであらう。加之、其些々たる職業の爲めに彼の能力は當然發育すべき時期に當つて早くも既に萎靡枯渇して仕舞うのである。

職業教育を正當に理解するには、それが背景たる職業の社會的意義を知らねばならぬ。職業の爲めの教育といふことを聞くと、直に其思想が低調であり、商業的であり、且つ功利的であると非難する論者のあることは、偶、以て職業教育の本義が未だ一般に明かに理解されてゐないといふ事實を證

據立てるものではないか。特に此非難を發するものは在來の形式を襲用してゐる教育者側であるが、是れは何の不思議もない。蓋し在來教育者の使命は、直接生活と無關係なる在來形式の教育乃至教養を主張するに在つた爲めであらう。而して兒童は是れまで斯かる主張の下に通學を強いられてゐたのである。然し、生活の實際方面を主とする家庭、商店、農場等は常に兒童を學校から引離さうとばかりしてゐた。而も兒童の處する比較的單純なる產業生活に必要なる實際的練習の如きは、家庭、商店、農場等が優にそれを兒童に與へ得たのである。未だ義務教育制の布かれなかつた時代には特殊の職業にあらざる限り、大抵の事柄は學校教育に依らないでも、單に實際生活を營むのみで概ね學得することが出來た。普通の男女には唯一通りの少許の學校教育だけで十分であつた、否、往、何等の學校教育をも要せざる場合もあつた。當時に在つては、何等の學校教育をも受けずして而も成功した人々が隨處隨時に見受けられた。斯くの如き成功は往、學校の助力を仰がずとも優に可能であつたとはいへ、尙且つ學校は實際幾多の價

値を有つてゐたことは爭はれない事實である。故に斯かる時勢に處した教育者が、生活の實際的興味を蔑視し、又それが青年の發達に貢獻する力を輕視するに至つたのは强ち無理ならぬことであらう。學校の事業は功利よりも寧ろ教養を目的とするものと考へ、家庭や農場や商店などの事業とは極端に相容れないものと考へたり、又眞の教育は卽ち學校の教養的教育であり、爾餘一切の教育は總て單なる功利的のものと考へるに至つたのは少しも異しむに足らない。從つて當時の教育者の所信であつた、學校は明かに功利とは沒交渉なるもの、否、功利よりも一層高尙なるものを目指してゐるといふ思想を社會一般に普及せしめようと努めたのは彼等にとつて、極めて自然のことと謂はねばならぬ。

斯く學校と職業的功利との間に何等の同情も存せず、二者全く沒交渉となつたのは勿論遺憾には相違ないが、是れは素より特別の事情の下に生起したる一時的乃至偶然的事件に外ならぬ。今日に於ては二者の間の不和睽離は全く撤去され、苟も完全なる教育に於ては二者其一を缺くべからざ

るものと認められ、而して又生活の功利的方面が最早外部的强制を以てしては到底適當に與へ得ざるに至つた現代に於ては特に二者の融和を必要とする。故に今日の學校に於ては先づ從來の僻見を放棄して須らく教養的兼功利的の教育を施さねばならぬ。

少しく職業の社會的意義を省察すれば、教育に於ける實際的方面の社會的必要を立論すべき確乎たる原則を發見することが出來るであらう。左に其概略を述べよう。

一　職業は社會進步の自然的產物である。社會が其複雜を增すに從つて必要なる勞働の特殊化卽ち分業を生ずることは必然の勢と謂はねばならぬ。

二　職業は文明社會を維持する上に飽くまでも必要である。文明の作用、換言すれば諸般の職業が複雜となると同時に非常の熟練を要することとならば、殊に夫々の職業に熟達し且つ其職業に一身一生を委ねんとする人にして始めてそれを遂行することが出來るであらう。

三　職業は個人に取つて深き道德的乃至智的意義を帶びたもの、從つて社會に取つても亦然るのである。今、仔細に之を論究すれば、(イ)試に一定の業務を有し、何等か專心從事する業務を有ち、智力及び體力の大部分を活用し得べき何等かの業務を有つてゐることが如何に其人に取つて道德的價値あるかを考察せよ。此道德的價値は特に熟練した業務に於て著しく發揮される。業務に熟練した者は確乎たる道德的品性を構成すると同時に、社會有爲の人物たる上に頗る重大なる要素と見るべき個人的價値の感を得來たるに相違ない。(ロ)職業の道德的價値は特に次の事實に於て明瞭に發現する、卽ちそれは懈怠者又は犯罪者の矯正は主として彼等を何等か生産的業務に服させ、且つそれに熟練せしめることに依つて始めて可能となるといふことである。犯罪者の十中八九は、畢竟彼等が純然たる人間的慾望を有效に滿足すべき何等かの業務を知らざるものに外ならぬ。かの懲治檻が今日囚人に職業教育を授けてゐるのは決して偶然ではない。(ハ)職業の道德的價値は所謂上流社會、卽ち何等の經濟的壓迫をも感じたことの

ない階級の間に存する社會的乃至道德的墮落の事實を考察すれば明かに會得される。富が社會に多數の富んだ非生産者、富んだ社會的寄生蟲を生ずるの傾向は實に痛歎すべき一大問題と謂はねばならぬ。蓋し斯やうな人々は容易に道德的墮落者となり得るからである。(二)合衆國に於ける黑奴の道德的乃至經濟的改良は、今日主として彼等に一定の職業を學ばしめることに依つて達せられてゐる。南部諸州の統計に據れば、黑奴犯罪者の九割は何等職業上の知識なく、又六割一分は無學文盲のものであるといふことである。

更に智的方面から觀察するに、人智發達の大部分は直接又は間接、職業的活動の必要から生じたものと言つても敢て過言ではなからう。人間が經濟上の事柄に對して根本的に興味を有することは、現に普通學校の課業に興味なき兒童が一旦職業學校に入學すれば、往々非常の好成績を擧げ得るの事實に徵しても明白ではないか。然るに今日北米合衆國の或州では、身體的に又は智的に缺陷あり、若しくは道德的に正常ならざる兒童に對しての

み公共費を以て有用な職業を學ばしめてゐるが、異常又は缺陷ある兒童の教育に對して有效なる事柄が、正常兒の教育に除外される謂はれがあらうか。現に正常兒の職業教育に關する方案も現はれてゐるではないか。然し、何れにせよ今日學校の課業は概ね誤まつた目的を以て遂行されてゐることだけは到底看過すべからざる事實である。如何に知識教育が肝要であるとはいへ、兒童は如何なる時期に達しても、常に實際生活の興味を必要とするものである、而して此興味は、小學校卒業期乃至は青年期の近づくに從つて益、職業的興味に移り變はつて行く。若し斯やうに、小學校教育をば日常の實際生活と關聯せしめたならば、從來小學教育に對する幾多の非難と不信認とは忽ち消滅して仕舞うであらう。

要するに生涯の職業は一概に商業的とのみ言ひ去ることは出來ない。勿論それは自己の爲め、將た又其家族の爲め生計を得るの必要から直接起つたものであり、且つそれと密接不離の關係を有するものではあるが、尙、廣くそれを社會的に觀ても極めて必要なる意義と價値とを有つてゐる。職

業的活動及び職業的誘因の缺乏ほど痛ましい災害を社會乃至個人に及ぼすものはあるまい。此等は實に人間の活動を發揮する順路であり、又過不及なき人間本性を保持する爲めの必需品であると言ふことが出來る。

人格教育と職業教育との輕重は單に歴史上に現はれた先後關係を根據として決定されるものならば、後者が前者に比して重要なることは容易に斷定し得られると思ふ。職業教育の起原は實際、人格教育よりも舊い、而も其然る理由は頗る簡單である。卽ち人間は常に生計を得る爲めに兎に角何等かの熟練を要する職業を有たねばならぬといふ爲めに外ならない。文化未開の時代には職業は主として模倣や折々の模範教示や、又は試驗及び過誤の方法、換言すれば自己直接の經驗に依つて狩獵などを學んで衣食住、乃至粗笨幼稚の耕作を營んでゐた。其後益、複雜なる技術の發達するに從つて、徒弟制度が自然に現はれて來た、而して此徒弟制度は幾多の點に於て、最も完全なる職業教育の制度たることは爭ふべからざる事實である。主として生地の儘の本能や能力に基いた無組織の職業教育は、是れまで如

何なる時代にも存在してゐたが、今日の如く職業教育が特に要求され、又は必要を感ぜられる場合に於ては、それは學校の下に組織される傾向が生ずる、而して何等かの機關に依つて職業教育を施すことは目下緊急なる社會問題と言はざるを得ない。

職業教育に關聯して而も其一局面たる職業指導の問題は今日一種の社會的必要と看做されてゐる。兒童が小學校を卒業して、是れから生涯の職業に就くといふ際は最も注意を要すべき時期である。若し此際一歩を誤まれば或は生涯遂に取返しのつかない破目に陷るかも知れない。幸にして其過誤を恢復することが出來るにしても、それまでの體力並に心力を空費し、爲めに或は小學校の教育を徒勞に歸せしめるの虞がないでもない。如何に小學校で職業教育を授けても卒業後實地に就いた場合、それが何等の役にも立たぬやうでは教育の效果は、恐らく空無に歸するであらう。加之、小學校を卒へたばかりの兒童には、自己の力量が如何なる方面に最も優

れてゐるか、換言すれば、自己の天分は如何、自己生涯の職業は如何といふやうな大問題は、未だ明かに意識されてゐない。況して此點に關して其父母にも斯かる明瞭な考がない場合には、兒童は果して何人と共に親しく相談し合ふべきか。然るに又一方には職業の分化は時代と共に複雜多岐に赴き、夫々微妙なる技術と熟練とを要する。而して此等に亙つた詳細な事柄は素より兒童の知り得る所でない。若し又、其家庭に於ける生活の壓迫が痛切に兒童の念頭に襲來するやうな境遇であるならば、尙更職業に就くに當つて深く考慮するの遑がない譯である。小學卒業期卽ち十四歳の頃が兒童の危機なりと稱せられるのは決して偶然ではない。

此點に顧みて近來職業局、又は之に類似のものが各大都市に設置されることとなつた。卽ち其目的は小學卒業の兒童の就職に關する顧問又は世話人たるに外ならぬ。是れは小學校内に設けられてゐるものもあるし又、小學校とは別に設けられてゐるものもある、何れにせよ其目的と方法とに大差はない。此點に於て最も顯著な一例はボストン市の職業局であつて、

局長マイヤー・ブルームフィールド氏は種々なる研究を遂げ、著々其方案を實施してゐる。氏は兒童がかの少年特殊の職業たる用達小僧や昇降機小僧などのやうな、毫も將來有利なる職業の準備とならざる、所謂行き詰まり的職業に就くのを浩歎し、如何にかして此不幸を除かんと苦心してゐる。

今、ボストン職業局の事業の一班を示せば、(一)當職業局は職業指導者を聘し、ボストン市各小學校の卒業生に就職上の忠告を與へしめ(二)職業指導者はボストン市學務委員又は學校監督と協同して其事業に鞅掌し、(三)ボストン市各中學校校長及び教師の會を開き、小學卒業期の兒童に對して職業上の忠告を與へしめ、(四)學校監督と協同して小學卒業期の兒童の爲めに職業上の講話會を開き、(五)小學校の校長及び教師の會合を催し、彼等をして此事業に戮力せしめ、(六)兒童就職の種別、忠告したる兒童數、職業選擇に對する兒童の態度、與へたる忠告の內容及び其結果等を精細に記錄し、年度末にボストン市學務委員會に報告すること等である。而して現にボストン市に於ては學校監督は學務委員の指揮に從つて職業指導者と協力して此事業に

參與すべき六名の委員を任命し、職業指導委員會を組織してゐる。

又紐育市には中學卒業生の就職に對する中學校教師の職業指導會が成立してゐる。

職業教育乃至補習教育を述べた場合、吾人は是非とも其最も典型的施設たる獨逸ミュンヘン市の補習學校に就いて一言する所なければならぬ。是れは同市視學ゲオルヒ・ケルシェンシュタイナー博士の考案指導監督の下に成つたものである。博士の事業及び學說に關しては、輓近我國教育界にも公民教育運動と關聯して盛んに喧傳されてゐるから今更説するの必要はない。尙、博士が先年北米合衆國に於て發表した『補習教育の根本原理』と題する長篇の論文は、博士の學說及び事業を窺知するに最も好都合のものであり、而も最も暗示的の議論に富んでゐるものであるが、是れは現に本協會第三期刊行書『現代の教育的運動』中に詳細に紹介されてゐるから、特に此場合再說するの煩を避けて置く。

第九章　教育と社會發達

『古今の識者にして學校を以て社會進化の一大原動力と認めざるものはない。』或は學校は今日社會發達を促がす有力なる機關であり、教師は普通の父母よりも廣き見識と自由の精神とを有つてゐると言ひ、或は『學校は畢竟一層善く、一層高き生活の豫備である』と言ひ、或は『教育は複雜なる社會的諸團體の習慣及び特性を統制する手段である、而も是れ軈て社會の堅實なる進歩を期する爲めの主要手段となる。人間の本性を無限に陶冶し得る機關であり、從つて又社會を完成し得る機關ともなる。一言以て掩へば、革新乃至進善の業は教育本來の任務である』と言ひ、或は又、學校は社會の進歩及び改良の根本手段であるとも言はれてゐる。』斯かる言說は苟も教育の社會的見解を採る吾人に取つては總て好箇の刺戟である、依つて吾人は教育と社會發達との關係を周到綿密に吟味し、教育が如何やうに社會發達に貢獻するかの方法を決定しなければならぬ。

斯樣な問題を概括的に論述するに際しても吾人は抑、社會發達の眞義如何を假定して掛かる必要がある。然し吾人は餘り抽象的假定などの詮議に過ぎて、却つて社會發達の具體的乃至實際的局面を閑却する等のことあつてはならない。

故に社會發達といふことを抽象的に定義するよりも、社會に實際現はれた又現に生じつゝある或種の變化を實地に示すのが捷徑であり、得策である。豫じめ現代社會の進歩的なることを確信する以上、吾人は現代社會に現はれた諸種の變化が主として實際に社會發達を招致したものと考へることが出來る。例へば眞の社會發達は、何等かの形式に於て人間の幸福を增進したといふ議論は恐らく何人も異論なき所であらう。今、玆に吾人は幸福の要件を穿鑿する遑を有たないが、幸福の最後の根據が、個人其人に存し、個人の人生觀乃至個人のあらゆる思想に存することは爭ふべからざる所である。勿論個人の人生觀乃至思想等の如き內的、心的態度は幾多の外的事情の爲めに或は助長され或は阻止される。從つて社會發達といふこ

とは單に個人の內的態度のみを以て說明し盡す譯には行かない、或程度まで此等外的事情を參酌する必要がある。故に吾人は疾病、貧窮、犯罪等の減少、遺傳の改良、一般の物質的幸福の增加、休養及び社交の機會の增加、個人が何等かの生產事業に從事する機會の增加、乃至は知識の增加等を以て社會が發達進步した證據であると考へるのである。

人間社會は不斷の變化及び分化を繼續してゐる、而して此等の變化は往、個人乃至社會の進步と何等積極的關係を有たぬもののやうに見える。事實、人間進步を定義する最大困難は、進步の複雜多端にして而も殆ど常に同一步調に出てゐないといふ事實に存する。究極する所、自然の財源を征服し、且つそれを保存することが社會進化の要素たることは爭はれぬが、或場合には其結果、人類の幸福を增進せずして却つて艱難不幸を招ぐと見えることもある。依つて思ふに、社會の發達進步といふことは、人間の本性や、社會的關係や、人と環境との關係などに於ける複雜不斷の變化といふことを意味するもの、而して此等一切の變化は、益、一般の幸福を增進し、且つ人生の

欠

を得ない。」單に實際上の目的の爲めならば、唯此傾向を認め、又此傾向は明かに現代社會生活の自然的必至的表現なることを認めさへすれば恐らくそれで十分であらう。然し學者は此教育活動の發展と一般社會の運動との關係を究め、出來得べくんば此教育活動の發展の基礎たる原理を決定せずして息むべきでない。換言すれば、一貫した學理を以て學校が社會の改整及び進歩の一原動力たることを論證せずんば決して滿足するものではない。

「教育理論の方面から觀れば、教育活動が元來明かに感ぜられた社會の要求から發生したものであるといふ見解が、此論證の基礎となるものであらう。「社會は特殊の教育を必要とする、而して種々なる學校はそれに應ぜんとして發生する。如何なる學校も結局或方面の社會活動と密接不離の關係あるが故に、始めて其存在理由を有するものである。

然し學校は單なる道具、換言すれば外部的社會の意志を單に記錄し表現する爲めの受動的機關ではない。自ら又、社會全活動中の一部、社會諸制度

欠

の中の一種、社會意識の一表現法である。此見解に從へば、單に社會の進步發達を記錄するのが教育作用ではない、正に一般社會の進步發達を助成する能動的意識的努力に外ならぬことが解かる。

若し社會諸活動が種々なる制度に組織され、而して其一々の制度が夫々特殊の作用を營むものであると考へるならば、如何なる進步發達も概して種々なる諸制度の全活動が合成したもの、此等の諸制度が夫々其活動を成就し得る方法の一なることは容易に會得されるであらう。換言すれば社會全體の進步は、單に特殊の一制度、若しくは社會の一部分にのみ其責を歸すべきものでない、各部は夫々社會の大運動に對して原動力たり、又應分の寄與を爲すものである。社會各部の本務は意識的に、且つ組織的に夫々其活動を擴大し發展せしめるに存する。教會が其力を擴大して廣く且つ新しき活動範圍を展開して來たのも全く斯かる事情に因るのである。組織的慈善團體の發展したのも、貿易通商の組織の發展したのも全然之と其符節を合する。總て此等諸般の社會活動は絶えず新局面を打開し、新表現法

を發生してゐる。新聞紙は特に此活動の發展乃至擴張の好適例である。卽ちそれは單に日々の出來事を印刷して江湖に流布するのみならず、各方面に亙つて生きた社會問題及び政治問題に關する獨得の研究を試み、其結果を社會に發表することを普通としてゐる。種々なる方法で新聞紙の公表的活動が擴張し來たつた今日、新聞事業の創始者が嘗て夢想だもせざる程度まで新聞紙と社會との關係が密接するに至つたのである。

抑、社會が進步的社會として自存し得る所以は、其機關が絶えず動的、進步的であるが爲めに外ならない。蓋し社會が必然爲さゞるべからざる仕事は益、複雜に赴き、從つて在來の機關が之を營むことが出來なくなつたならば、其必要に應ずる新機關の發生を促がすことは極めて自然であると謂はねばならぬ。

「翻つて學校を觀るに、其活動は元來教授訓練を掌るものである、從つて今日の社會が從來よりも此本來の任務を一層必要とすることは勿論であるが、之と同時に、單に兒童に限らず、廣く成年者をも教授し訓練する新方法と

關聯して現時の社會狀態を研究する必要も亦從來よりは一層痛切を增したのである。國家の教育當事者は須らく組織的研究を遂げ、教育活動を表現する新通路乃至新方法を打開するに努めねばならぬ。而して發展を全うすべき責任が主として教育事業に從事する人々の双肩に懸かつてゐることは言ふまでもない。是れ畢竟、教育當事者が特に教授に對する一般社會の要求を最も熟知してゐると思はれるからである。換言すれば、特に教育當事者は學校の事業をして從來感ぜられなかつた種々なる社會的要求に最も善く適應せしめ得べき方法を知つてゐるものと認められるからである。

斯く言ふのは勿論、今日の教育活動が最初原始社會に現はれた當時のそれと比して遙かに發展し擴張したといふことを豫じめ假定した上である。蓋し今日の社會は當時と比較して遙かに複雜となつて來た以上は、社會活動の一面たる教育が、それに準じて擴張し發展することは到底否認すべからざる所であらう。更に又、教授を以て本務とする教育當事者が、自己の從

事する事業を一層廣く擴充し、須らく社會に於ける彼等獨得の活動を開拓するに努力すべきではないか。實に社會の各要素が悉く動的であり、換言すれば皆一層充實し、一層複雜なる表現法を發見せんと努力してゐるからこそ、眞に社會の進歩なるものが事實に現はれるのである。實際、教育機關は苟も資本のある限り、又他の機關が未だ買占めざる活動舞臺の存する限り、絶えず各方面に其活動を展開して行くのは論理上正當である。素より如何なる機關の活動と雖、資本の制限と他の社會的機關の買占との外、他に其發展を防遏さるべき何等の制限をも受けない。

教育と社會發達との關係に關しては更に他の方面がある。故に此問題を仔細に研究せんとするものは、是非とも之に論及しなければならぬ。吾人が以上專ら論述したことは、學校が選擇して、それを生徒に教授する所の材料又は内容に依つて、社會の進歩に貢獻し得る所以に關するものであつた。然し、單にそれのみでは未だ此問題の一面に過ぎない。學校が教へる材料又は内容と同時にそれを教へる方法が社會の進歩に何等かの意義を有

し、何等かの貢獻を爲すものであるや否やの問題が起つて來る。換言すれば生徒の個性及び熱烈な進取的氣象を助長するやうな教授の方法を採るべきか、又は生徒の自發的天性を磨滅し、且つ彼をして因襲的の外部的事情に適合せしめるやうに教授すべきかの問題が殘存してゐる。」而して此問題に答へるには社會進歩の理想は社會特殊の環境に適合するに在りといふ一般周知の思想を少しく吟味しなければならぬ。」

「多くの社會學者乃至社會學上の問題を研究する學者は今日尙ハーバート・スペンサーの學說を襲用してゐる。スペンサーは其『倫理學』に於て人間進歩の終局は、環境に對する完全なる適合又は順應に在りと定義した。最近一社會學者が彼に倣つて社會の進歩を次の如く定義した、曰くそれは『社會が一層廣く一層普遍的な環境に順應することである。人間進歩の理想は完全に普遍的なる環境に順應するに在ることは疑ひない、而して斯かる順應は內的外的、現在將來の區別なく、總て人類生活に存する一切の要素を調和統一する底の順應である』と。」

「吾人は此等の言說を其儘に受取つてはならない。先づ之を仔細に檢覈吟味するの必要がある、否斯くするに從つて益、其意味乃至眞僞が明瞭になつて來るのである。單に表面上から觀察すれば、凡そ環境とは一種の外部的、固定的、自然的、社會的秩序を意味し、順應とは個々人が此儼然たる秩序に一致適合せざるより外はないといふやうな意味を有つてゐるものと思はれてゐる。然し此種の社會發達といふ意味には環境順應といふことに餘り重きを措いてゐるではないかといふ疑問がある。勿論、社會發達といふことは意味次第では概して環境に依據するものなることは疑ひない。蓋し順應及び環境の二概念は生物學から社會學や教育學に這入つて來たものである。生物學では環境といふ語は疑ひもなく比較的固定した一團の外的事情を意味する、而して生物は之に合致しなければならぬ、若し合致しなければ死滅の外はない。故に環境とは恰も希臘の古譚に見えるプロクラステスの褥に譬へることが出來よう、詳しく言へばプロクラステスなる强盜が人を捕へる度毎に鐵の褥の上に寢かし、其人間の身長が鐵の褥より

長い時は、餘つてゐる部分だけを斬取り、若し短い時は、無理にも其人間の身體を引延ばして襪と同長にしたといふ傳說があるが、苟も人間が其上に臥して生存するには無理にも身長を引延ばさねばならぬ。斯やうに寰境は總ての生物に對して頑强にも、それに適合することを强ひる固定不動のものと考へられてゐる。例へば寰境は鹿に向つて速力を要求する、故に鹿は其所要の速力を得なければならぬ、然らざれば死滅の悲運に陷らざるを得ない。故に鹿は斯やうにして其寰境に適合し順應したのであると言ふのである。

「斯く下等動物に取つては寰境は實際固定的であり、可成り單純である。然し漸次高等動物となるに從つて、寰境は漸次複雜に赴き、且つ伸縮性に富んで來る、而してそれが動物に影響する方法は益、微妙複雜になつて來る。寰境が複雜となつて來るにつれて、それは益、伸縮性を帶び、益、變化性に富んで來るものである。加之此複雜な寰境に依つて作用される高等動物は、益、其寰境を變更し、且つ單に自己を寰境に順應せしめるのみならず、同時に又

自己に寰境を適合せしめる力が增加して來る。斯やうに寰境をば自己の要求に適合せしめる能力は、既に人間以下の動物にも存してゐる。例へば鳥が地上に卵を孵化せずして、卵の爲めに巢を造る事實を吟味すれば、それは實に寰境を利用したものと看做さねばならぬ。卽ちそれは鳥が寰境に順應したと同時に寰境をば鳥の要求に適合せしめたものと認めざるを得ない。要するに鳥は最早自然物に左右されてはゐない。泥土や、棒切れや、藁や、繩などは鳥の自由巧妙なる使用法に左右され、最早頑强なる主人ではなくして從順なる奴婢となつて仕舞つたのである。

更に一層高等の動物に在つては寰境をば自己に適合せしめる能力は益、增大し益、顯著に現はれる。而して人間が此能力を有する點に於て最も顯著なものであることは今更言ふまでもない。勿論斯く言つても人間が寰境に順應することの多大なるは否定すべからざる事實があるが、一方に於て人間が其寰境をば益、增大する自己の要求に適合せしめることも之と同樣に爭ふべからざる事實である。假令、從來後者の程度が前者ほど多大で

なかつたと看做されてゐたとても事實は到底無視することを許さない。抑文明の全過程を達觀すれば、それは人類が頑强な自然的事情の奴隷たる地位から漸次自由となり解放されて來た所の徑路と言ふことが出來る。而して人類が此等の自然的事情を改整改造する能力は益增大し來たるものである、是れ往、文明人は高度の人爲的環境に生活すると稱せられる所以ではないか。勿論此人爲的環境は假令人爲的とはいふものの、決して或一人の個人が造つたものではない。幾代に亙つた、總ての人間の共同的活動の結果である。然し、それにも拘はらず依然として人爲的である、換言すれば人間の要求に應ぜしめんが爲めに、自然をそれに適合せしめたるものに外ならない。現代人の衣食住は總て彼が自己自身を變化せしめずして寧ろ其環境を變更せしめんとした彼の努力決心の結果ではないか。

斯く人間は自然の力や自然界の事物を利用して彼自身の要求に適合せしめたとはいふものの、それと同時に彼自身も亦、幾分か自然が賦課した諸諸の事情に順應したことは爭はれない。例へば穀物を收穫する爲めに土

地を耕作することは自然の順應たると同時に自然界の事情に對する順應ではないか。水力を利用して水車運轉に便ならしめんが爲めに堰を築くことは、自然をば吾人の用途に供したものではあるが、斯くする爲めに吾人は自然が吾人に賦課する或事情に服從しなければならぬではないか。吾人は今日かの開闢以來自然界到る處に瀰漫してゐる無限無量の電氣力の或ものを自由に使用し得るに至つた。斯くして吾人は能く自然界を利用することが出來たが、それと同時に吾人は自然界の事情に順應しなければならなかつた、殊に或種の機械、例へば發電機の製造の如きは卽ちそれである。發電機を製造し、又發電所を建設するのは是れ卽ち眞の意味に於て吾人が自己を環境に順應せしめる所以である。然しながら、吾人の此讓步は翻て環境が吾人に對して一層大なる讓步を爲すの前提たるものではないか。

されば吾人は環境も人間と同樣、伸縮自在の變化性を有するものと看做さざるを得ない。環境は各個人以外の全世界ではなくして實際、單に此世

界の極めて一小部分に過ぎない、而して此一小部分は、吾人が或希望又は欲望を實現せんが爲めに之と戰はねばならぬものである。機械的、植物的、動物的乃至は人間的の材料又は力が複合したもの、是れ卽ち眞の環境である。而して吾人は此環境を改整して吾人と協同せしめるか、然らずんば少くとも吾人の目的遂行を妨害せざらしめねばならぬ。或は又此環境を參酌して吾人の目的を立て直し、從つて最初の形式を多少變更して其目的を遂行するやうにしなければならぬ。

故に人間の進化は或點から觀察すれば、環境となつてゐる諸々の材料と力とを漸次巧妙に探知し、此等を利用して次第に自己の目的を實現せしめて行くことに外ならぬと言つてよい。

然し進歩發達なるものに含まれてゐる總ての事情は錯綜隱微を極めてゐるから、到底其眞相を適切に叙述することが出來ない。其一面を叙述する中に知らず識らず、他の方面の眞相を誤まるが常である。此事實を念頭に置いて、吾人は少くとも次の如く言ふことが出來る。卽ち、社會の進歩と

いふことは決して單に或固定的環境に對する適合若しくは順應といふ生物學上の觀念に基くものでないといふ考は、正當でもあり、眞實でもあると。何人にも生活は環境利用よりも環境順應の方が多分であると見られよう。然し全體として進歩發達なるものが、若し利用並に順應に存するものならば、凡そ進歩的社會とは多大の創始力を有し且つ單に自己の目的をば境遇に適合せしめることよりも、寧ろ自己の目的に適合するやうに境遇を形成し得る人々が、可成り多數棲息してゐる社會の謂に外ならぬことは明かであらう。

「人間進歩の根本條件は、未だ獲得されないものを獲得し、未だ到達されないものに到達せんとする熱心乃至欲望に在ると言つてよい。社會が須臾も靜止せず、從つて其結果生ずる諸々の社會的變化の現はれるのも其基礎は全く止み難い此人間の本性に因るのである。」而して此本性は實に飽くまでも實驗し、飽くまでも新しい方法にて目的を遂行し、自然界未顯の事物を探求し、熱烈に地球の表面を討査し、其實質及び財源を發見し來たつた所

の個々の人間乃至民族の特質である。今日に於ては最も活動的の民族が最も進歩的の民族といはれてゐるではないか。唯注意すべきは單なる變化は必ずしも進歩を意味しない。却つて容易に退歩たることがある。「然し新進路を打開し、新事物を成就せんとする熱望が個人乃至民族に存せざる限り、進歩も退歩も二つながら殆ど存在し得ないことは明白である」。

「殆ど創始力乃至進取的精神を缺いてゐる人民と雖、素より多少の進歩を爲すことは出來ようが、それは畢竟淘汰の遲々たる活動に依據するものたるに過ぎまい。從つて、それのみにて果して眞に高き程度の社會狀態に到達し得るや否やは大に疑問である。」今日棲息する未開民族は元來非進歩的民族と認められてゐるではないか。彼等が兎に角今日まで到達し得たのであらう。而も此自然淘汰にして何等の指導乃至助力を受けざる限り、それは動物が自然的環境に順應するのと殆ど異ならざる程度の極めて幼稚極めて單純なる順應を出來するに過ぎまいと思ふ。此場合に出來する

順應は單なる順應に外ならない。詳しく言へば創始力乃至進取的精神を缺いた順應であり、又環境に服從せずして却つて環境をして自己の要求に適合せしめんが爲めに、それを變更する所の尊き不滿の念を缺いた順應に外ならない。中部濠洲土人は身に衣服を着けないが、彼等の裸體は數千萬年の間極端なる寒暑に曝らされて、今や全くそれに慣れて仕舞つた。又其胃袋は全く食物次第にて如何やうにもなることが出來るといふことである。或は自然が仰山な食物を彼等に供することもあり、又時としては殆ど何等の食物をも缺くことがある。然し彼等は飽食飢餓の何れでも、兎に角我身に降り下つて來る其時々の事情の下に依然として優に生活することが出來るのである。此驚くべき濠洲土人の耐久力は、畢竟是れ自然淘汰に依つて漸次出來上がつたものに外ならない。之に適合することの出來なかつたものは、悉く頑强嚴肅なる法則に據つて死滅したのである。故に中部濠洲土人は環境に對する驚くべき大順應力を有つて居ると言ふことが出來よう。自然界の事情は彼等の力では始ど寸毫の變更すらも出來得ま

い、否出來得るとして極めて些々たるものなることは勿論である。彼等は衣服を作つたり、適當の住家を建てたり、土地を耕作したりする氣は微塵だも有つてゐない。唯々自然が彼等に供給する木の實、草の根、鳥獸は勿論、蜻蛉、昆蟲等をも食する彼等は唯あるが儘の事物を受取り、偏にそれを耐忍することを學んだに過ぎない。然し此場合、耐忍なる言葉は彼等自身の態度から言へば勿論ふさはしい形容ではない、唯、別に相當した言葉がないから、暫く然か言つて置くに過ぎない。所詮彼等は耐忍するより外に方法はないからう。是れ卽ち彼等は耐忍するより外何事をも知らず、從つて又それだけで滿足してゐるからである。

以上濠洲土人の如きは最も著明なる事例であるが、之に類似した多少顯著の事例は他の總て非進步的民族に於ても見ることが出來る。而して彼等が到達した文化の程度も亦殆ど全く自然淘汰の結果に外ならぬことは勿論である。「翻つて所謂進步的民族を見るも吾人は尙且つ多數は單に彼等に課された境遇に適應するに止まつてゐることは事實であるが、如何な

る時代にも、あらゆる境遇の下に在つて常に不安不滿の念に驅られ、靜止停滯するを得ざる人々の多少存することは否定されない。換言すれば彼等は常に進取的氣尙を以て益〻完全なる自己實現を求めて息まぬのである」。

忍耐、努力、好奇、及び實驗や探檢に熱心なる氣尙、一言以て掩へば進取的精神なるものは恐らく天性に具つたもので、特に或民族に與へられた天惠であらう。而して此等諸性質の起原は又恐らく自然淘汰に發したものであらう。然し此等諸性質を實地に運用し、實地に活動せしめる重大なる舞臺の一は、確に兒童敎育の舞臺であつた。換言すれば、此等進取的の諸性質は、それ等自らは主として吾人の力を以て左右し得ざるものなるにもせよ、著しく社會の進步發達に貢獻し得、又實際貢獻する所の敎育活動の力と方法とを實地に活用し、且つそれを大に助長せしめた。

「人間生活を改良進步せしめ且つ其效果を增大ならしめることは、主として意識的目的に依據するのである。人は此意識的目的に更に思想を與へることに依つて、自己を向上せしめることが出來る、而して思想を得るに顏

る有效な手段は實に教育を措いて外にない。

最低級の野蠻社會に於てさへ、教育は積極的に社會進歩に貢獻する所なくとも、尙且つ或重大な任務を果たすものなることは吾人の既に述べた所に依つて明白である。卽ちそれは少くとも野蠻種族をば現存の文化程度に維持するだけの效がある。詳しく言へば蠻人社會に於ては極めて粗笨ではあるが、種々なる方法を以て祖先の遺した文化を兒童に教授するのである。勿論祖先が使用した方法を襲用して、更にそれ以上に進まんとするの考や欲望は彼等兒童の間には毫末も認められない。事實、如何なる野蠻社會の教育を觀ても、因襲的の成型を寸毫でも變更せんとする欲望は嚴に禁止されてゐるではないか。從つて彼等の間に存する教育の根本基調は、一言に、卽ち無雜作の模倣に外ならない。然し、斯やうに幼稚な程度の教育と雖、尙且つ從來到達しただけの文化を保存するの效は認められる。唯、更に進んで有效の程度を增大する積極的の力がないといふだけである。

翻つて進歩的民族の教育を觀るに尙、同樣に模倣に重きを置くのは、明か

である。是れは一見稍不思議に感ぜられるかも知れない。成年者社會の主として考慮してゐることは、卽ち兒童が祖先傳來の知慧と熟練とを模倣習得するに成るべく歲月を費さねばならぬといふ點であると思はれる。然し此方法は單に教育作用の端緒であつて、決してそれ自身目的ではない、否、或目的に達する一箇の手段たるに過ぎぬものと看做さねばならぬ。それは兎に角、進歩的民族の最も貴重なる遺傳は個人的進取的精神である。而して彼等に取つて最も重大なる問題は實に此進取的精神を巧に保存し且つ指導する方法如何といふ事に歸する。若し此精神にして指導を缺いたならば、それは無拘束の蒸氣と同じく何等の效果も價値もないものとなつて仕舞う、謂はゞ單なる蒸發に過ぎないものとなつて仕舞うのである。

凡そ兒童が過去歷代の文化の或局面を學ぶ所以は、單にそれに沒頭する爲めではない、換言すれば、古代の美術品乃至技藝品などが骨董家や考古家の吟味を受ける爲めに博物館に保存されるやうに、古代の文化を其儘手を觸れずに保存する所のかの祕藏器の如きものとなる爲めではない。彼は

寧ろそれを使用せんが爲めに學ぶのである、それを利用して更に彼が獨創進取の精神を發揮するに足る一層優つたものを造り出さんが爲めに學ぶのである、過去に於て祖先が陷つた失敗を避け、偏に其成功を利用せんが爲めに學ぶのである。

是に由つて觀るに、眞の進歩的社會に於ても尙模倣に重きを措くといふのは卽ち兒童が單に過去の文化を受動的に受け入れる點を重んずるといふのではなくて、それに依つて兒童各自の進取獨創の才能を巧に培養するといふ點に重きを措くことが明かである。斯く言つた所で餘り抽象的であり、概括的であると思ふから種々異なつた事情を少しく參酌して是れが解釋を試みなければならぬ。扨て獨創進取の精神は兒童に依つて種々なる差異が存する。或は唯一途に祖先の歩んだ道を其儘踏襲することに依つて最も有益なる生活に到達する人もあるであらう。尙又、進歩的社會に於て獨創進取の精神を涵養することの重大なる意義と價値とは敎育を以て單に統率者、首領者の造就を其本義とするものと看做すやうな狹隘なる

考を基礎として唱へられたものではない。然し現代世界に於て、其發揮すべき廣大の餘地を有する所の首領者的性質は斯やうな形式の敎育に依つて養成され、又助長されるものとなることは爭はれない事實である。然るに萬人悉く產業界、職業界、政治界、乃至社交界等種々なる方面の首領者たることは、實際に不可能の事であるから萬人に然かあれと望むのは無理である、故に萬人は活動舞臺にこそ廣狹の差別あれ、兎に角各方面に於て夫々自己指導の力や、新生の事情に適合し、且つそれを利用する敏捷な伎倆を要するのである。現代社會に現はれる生活難及び犯罪は一部分、生活狀態の激變に基因するものなることは事實であるが、貧窮者必ずしも常に無爲無能の者ではない。否、彼は往々其敎育の力に依つて或社會的乃至產業的階級に順應し、又は適合してゐたものであるが、彼が未だ安固な地盤を据ゑぬ中に、早くも該階級の事情が激變するに至り、而も彼は再び吾れと我身を其新生の事情に適合するやうに仕向けることが出來なかつた爲めに、止むを得ず遂に無能者の仲間に流落せざるを得なくなつたのである。

此處に吾人はかの順應を以て教育の理想と看做す見解に對して大に異議を挾まざるを得ない。殊に此順應なる語を以て或固定した社會秩序に順應するの謂に外ならぬと解釋する場合、吾人は一入之に反對せざるを得ぬのである。固定した社會秩序は文明の特徴ではなくして、實に野蠻狀態の特徴ではないか。斯やうなものが最早吾人今日の文明社會に存在せざることは素より言を竢たない。教育の目的が兒童をして進歩的社會に順應せしめるに在りと言ふことは、言葉を換へて言へば、畢竟、それは獨創進取の精神に重きを置かねばならぬといふことに歸する。現代社會に於ける或種の職業に就くべき教育を受けた兒童が、一旦實地に其職業に着手するに至つた場合、彼は確に事情が甚だしく變更してゐることに氣づくであらう。而も其激變たるや、若し彼にして多分に進取の氣尙と獨創の精神とを有つてゐないならば、それに順應するには非常の困難を嘗めるに極まつてゐる。今日、大多數の青年男女が實際、其生活に成功してゐるのは、明かに彼等が其方面に多大の天才を有する證據と謂はねばならぬ。今日の學校教

育は、此現代社會に於ける個人的成功に取つて肝要缺くべからざるものなるに拘はらず、人間進歩の根本條件たる進取性獨創性を養成することは殆ど不可能でもあり、又現に養成してゐないと言つても決して過言でないと信ずる。

學校教育は當然社會進歩を助長すべき筈のものであるが、現在に於ては、遙かに所期の效果に遠ざかつてゐるのは爭ふべからざる事實である。畢竟今日の學校は今日よりも舊く、且つ進歩しなかつた時代の社會狀態に適合したものと見るのが至當であらう。從つて今日の學校が比較的、訓練や、型に對する適合や、寰境順應などを頗る重大視し、其等を以て目的と看做し、斷じて他のものに到達する爲めの道具たり手段たりと認めざるのは極めて自然の事に屬する。

之に反して教育の目的は社會有爲のものたるに在りといふ說は一旦次の如き事實が明かにされたならば其十分の意義を發揮するに至るであらう。次の事實とは何ぞや、卽ち、此社會有爲といふことは、主として社會的理